

令和4年度

全国学力・学習状況調査結果

令和4年9月
小樽市教育委員会

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果

令和4年度全国学力・学習状況調査は、小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒及び市内29校を対象に実施されました。

小樽市教育委員会では、令和元年度より、本市の子どもたちの課題解決のための「小樽 授業づくりの5つのSTEP!!」を示し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図るとともに、学習意欲の向上と学習習慣の確立をめざし、各種研修会などを通じて指導内容や指導方法の工夫改善に努めております。

また、本調査は子どもたちの学力・学習状況を把握する大切な資料の一つであると捉えており、調査結果から見えてくる課題等については、学校間の序列化や過度な競争につながらないように配慮しながら、地域、保護者の皆さんに説明する責任があるものと考えます。

本書では、調査結果のポイントや児童生徒質問紙調査結果と平均正答率との相関を示しております。今後は、「小樽市小中学校学力向上検討委員会」を開催し、授業改善の方策についての協議を通して改善策を示し、学力向上の一層の充実を図ってまいります。

I 調査について

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年・中学校第3学年の児童生徒

3 調査の内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととし、出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査実施日 令和4年4月19日（火）

5 4月19日（火）に調査を実施した学校・児童生徒数

	学校数（校）	児童生徒数（人）
小学校	17	626
中学校	12	618
合計	29	1,244

※ 上記期日以外に調査を実施した児童生徒は集計には含まれていない。

II 教科に関する調査結果等について

1 教科に関する調査

＜令和4年度調査 各教科の平均正答率（%）及び平均正答数（問）＞

		小学校			中学校		
		国語	算数	理科	国語	数学	理科
平均正答率	小樽市	63	60	61	69	46	48
	北海道	64	61	63	69	49	49
	全国	65.6	63.2	63.3	69.0	51.4	49.3
平均正答数	問題数	14	16	17	14	14	21
	小樽市	8.9	9.7	10.4	9.6	6.4	10.2
	北海道	9.0	9.8	10.7	9.6	6.9	10.3
	(北海道との差)	(-0.1)	(-0.1)	(-0.3)	(0.0)	(-0.5)	(-0.1)
	全国	9.2	10.1	10.8	9.7	7.2	10.4
(全国との差)	(-0.3)	(-0.4)	(-0.4)	(-0.1)	(-0.8)	(-0.2)	

※平成29年度から、小樽市及び北海道の平均正答率については文部科学省から整数値で結果が提供されていますので、整数値で結果を表示しています。

※本資料で取り扱われている「北海道」及び「全国」とは、全て公立小中学校のことを指します。

2 中学校における経年比較について

＜全国の平均正答率との差を小学校第6学年（平成31年度）時と比較したもの＞

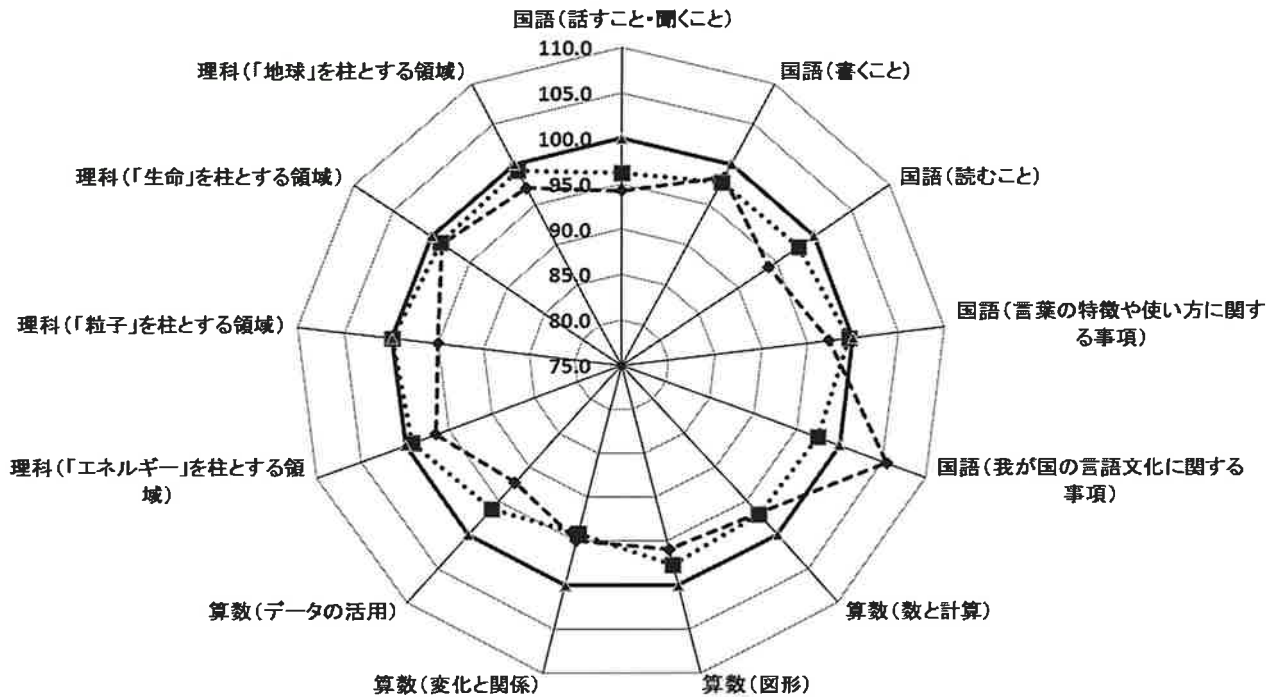
小学校（平成31年度）		➔	中学校（令和4年度）	
国語	算数		国語	数学
-1.8	-2.6		0.0	-5.4

3 令和4年度全国学力・学習状況調査結果の各領域等の状況

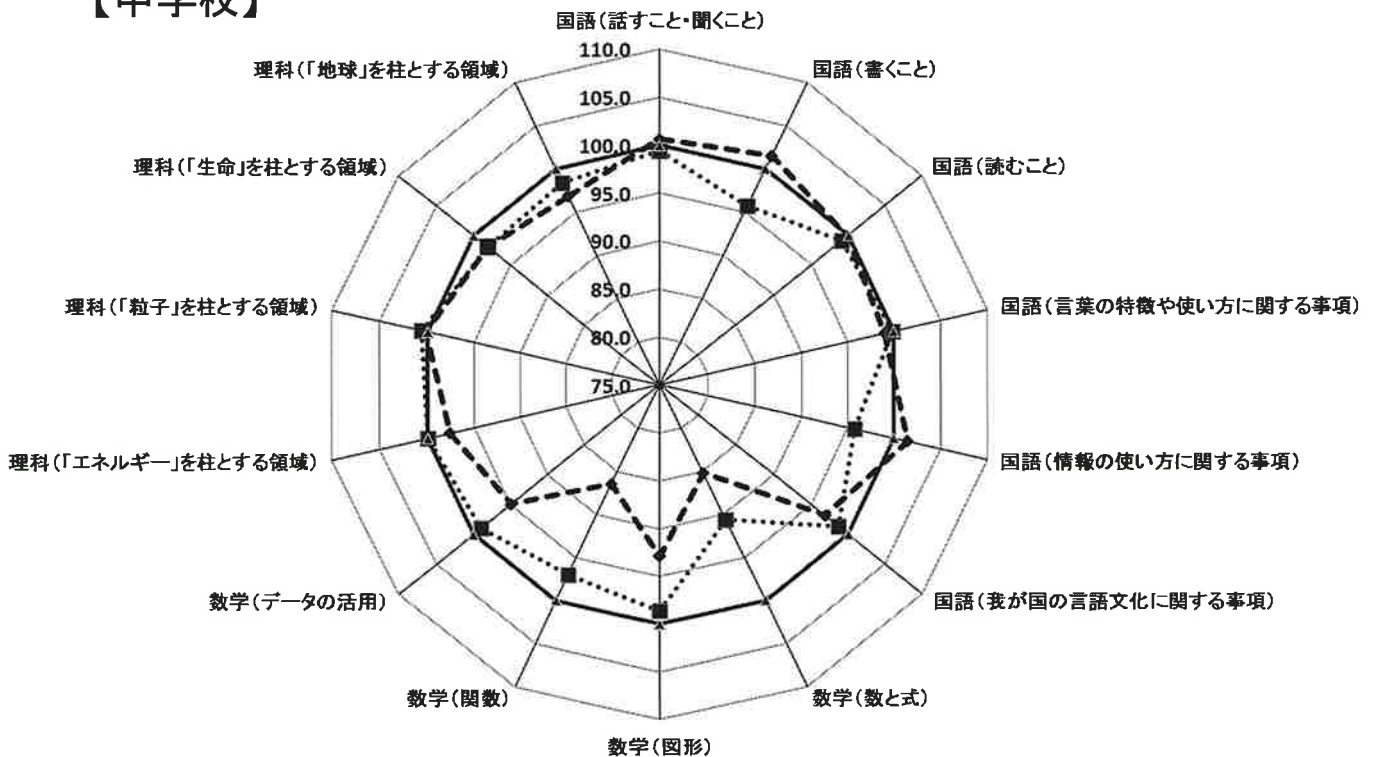
※ 数値は、全国の平均正答率を100とした場合の観点別の達成の状況を表しており、「それぞれの平均正答率÷全国の平均正答率×100」で算出しております。

【小学校】

---小樽市 ···北海道 →全国



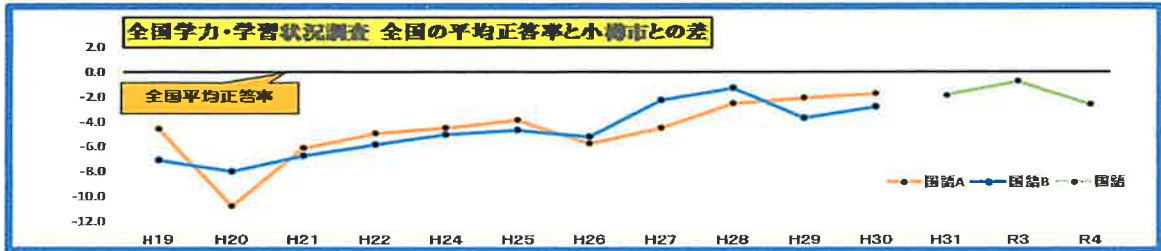
【中学校】



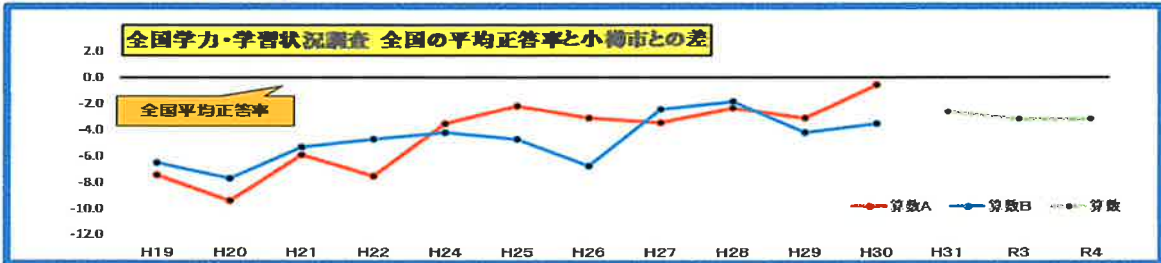
4 全国学力・学習状況調査 全国の平均正答率と小樽市との差の推移

※ 全国の平均正答率と小樽市の平均正答率との差を折れ線グラフで表しております。なお、平成31年度からは、AB問題の区別がなくなりました。

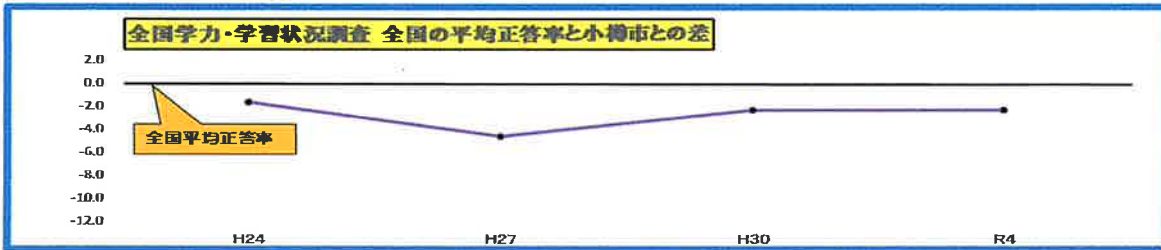
小学校・国語



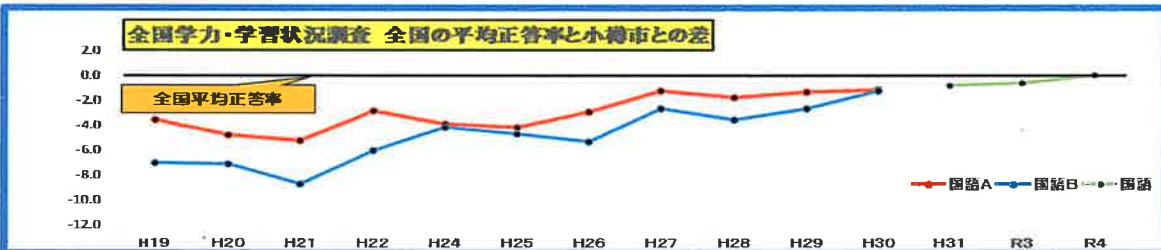
小学校・算数



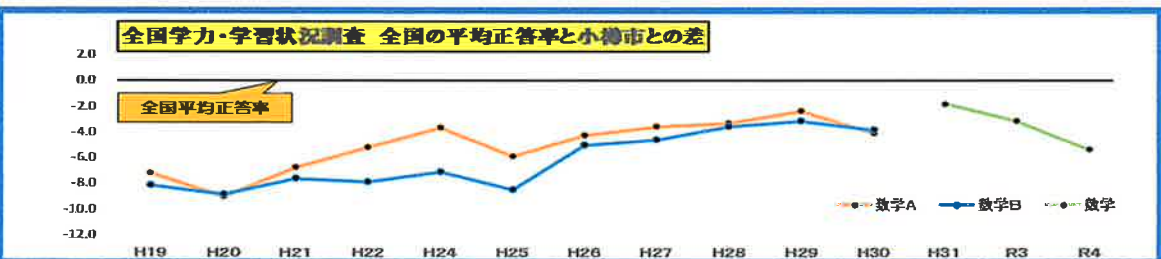
小学校・理科



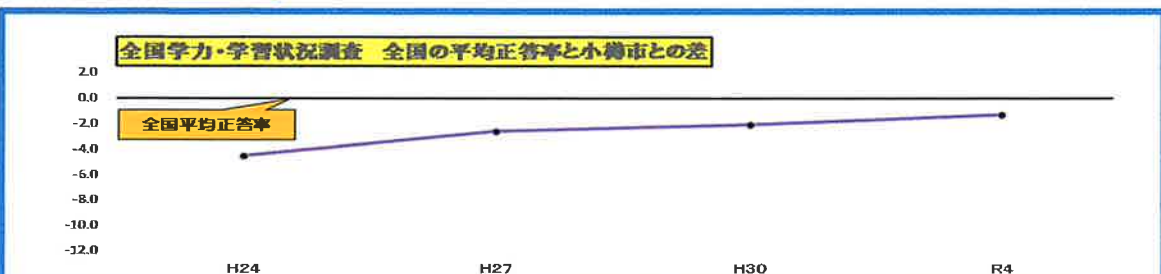
中学校・国語



中学校・数学



中学校・理科



小学校国語

【平均正答率】

	児童数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
小樽市	625	8.9 / 14	63
北海道	34,309	9.0 / 14	64
全 国	965,308	9.2 / 14	65.6

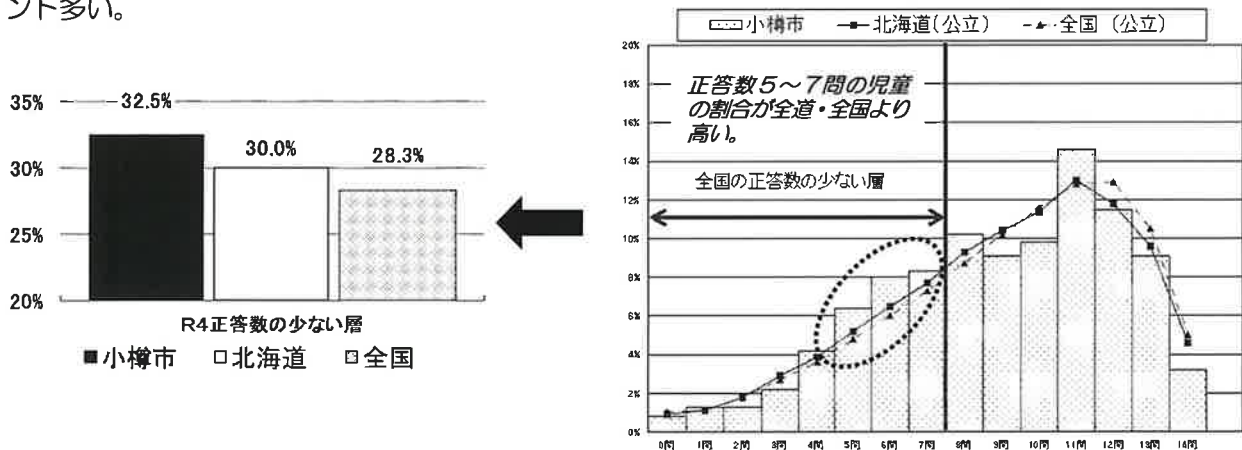
【領域別集計結果】

* □ は、全国平均以上
下線は、全道平均以上

分類	区分	対象 設問数	平均正答率		
			小樽市	北海道 (公立)	全国 (公立)
学習指導要領の 域等	話すこと・聞くこと	2	62.4	63.7	66.2
	書くこと	2	<u>47.7</u>	47.4	48.5
	読むこと	4	62.6	65.2	66.6
	言葉の特徴や使い方に 関する事項	5	67.2	68.7	69.0
	我が国の言語文化に関 する事項	1	<u>82.2</u>	75.9	77.9

【「正答数分布状況」及び「全国の正答数の少ない層・多い層に含まれる児童の割合」】

正答数の少ない層（正答数7問以下）に含まれる児童の割合が32.5%で、全国と比べ4.2ポイント多い。



【設問別の正答率の概要】（◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題がみられる設問）

- ◇「最初に書いた文章と書き直した文章を比べ、書き直した文章について、どのようなことに気を付けて書き直したかを選ぶ」設問（第5学年及び第6学年書くことの内容）は、61.3%の正答率（全国は59.2%）です。[問題番号3一]
- ◇「手紙で伝えるために書いたことを、相手の読みやすさを考えて書き直したときに、気を付けた内容として適切なものを選ぶ」設問（第5学年及び第6学年我が国の言語文化に関する事項）は、82.2%の正答率（全国は77.9%）です。[問題番号3四]
- ◆「複数の描写を基に、登場人物である「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する」設問（第5学年及び第6学年読むことの内容）は、64.6%の正答率（全国は70.6%）です。[問題番号2一(2)]
- ◆「物語から伝わってくることを考え、推薦する文章（【森田さんの文章】）の空欄に当てはまる内容を書く」設問（第5学年及び第6学年読むことの内容）は、63.7%の正答率（全国は68.3%）です。[問題番号2二]
- ◆「文章中の____部（したしむ）を、漢字を使って書き直す」設問（第5学年及び第6学年言葉の特徴や使いに関する事項）は、64.8%の正答率（全国は67.1%）です。[問題番号3三ウ]

◎国語における本市児童の課題は？

- ・複数の描写を基に、登場人物の互いの関係性について捉えること。
- ・人物像や物語の全体像を具体的に想像すること。
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。

小学校算数

【平均正答率】

	児童数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
小樽市	625	9.7/ 16	60
北海道	34,304	9.8/ 16	61
全国	965,431	10.1/ 16	63.2

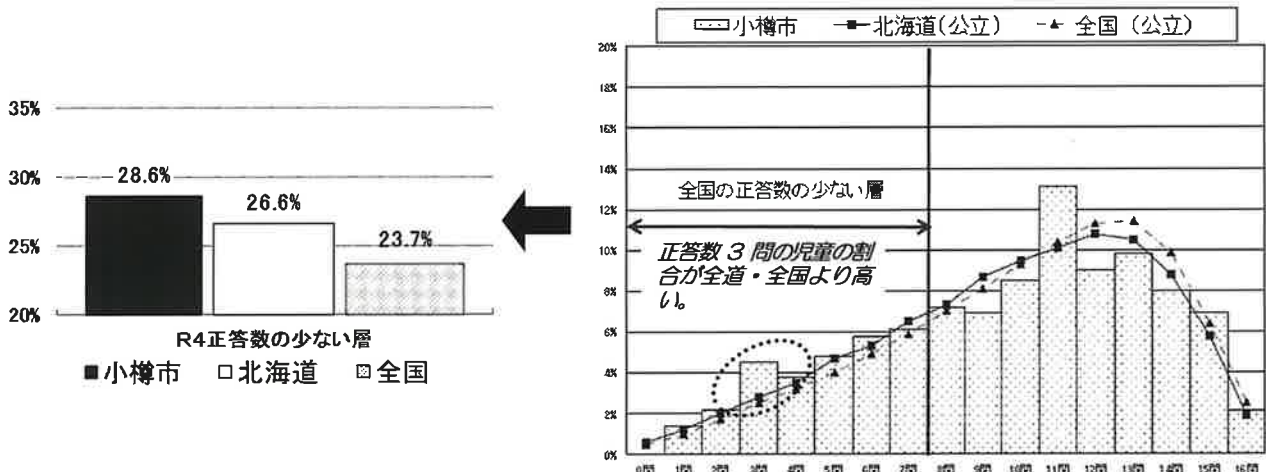
【領域別集計結果】

* □は、全国平均以上
下線は、全道平均以上

分類	区分	対象 設問数	平均正答率		
			小樽市	北海道 (公立)	全国 (公立)
学習指導要領 の領域等	数と計算	6	67.6	67.7	69.8
	図形	4	61.4	62.5	64.0
	変化と関係	4	<u>48.7</u>	48.3	51.3
	データの活用	3	63.4	66.1	68.7

【「正答数分布状況」及び「全国の正答数の少ない層に含まれる児童の割合」】

正答数の少ない層（正答数7問以下）に含まれる児童の割合が28.6%で、全国と比べ4.9ポイント多い。



【設問別の正答率の概要】（◇正答率が高い設問

◆正答率が低い等課題がみられる設問）

- ◇「1050×4を計算する」設問（第3、第4学年「数と計算」の内容）は、93.8%の正答率（全国は92.4%）です。[問題番号1]（1）
- ◇「85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ」設問（第4学年「数と計算」の内容）は、37.1%の正答率（全国は34.8%）です。[問題番号1]（4）
- ◇「果汁が含まれている飲み物（りんごの果汁20%）の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ」設問（第5学年「変化と関係」の内容）は、22.7%の正答率（全国は21.4%）です。[問題番号2]（3）
- ◆「表の各欄と合計欄の意味を理解し、ある項目（しりとり）に当たる数を求める式と答えを書く」設問（第4学年「数と計算」の内容及び第3学年「データの活用」の内容）は、68.8%の正答率（全国は75.3%）です。[問題番号3]（1）
- ◆「分類整理されたデータ（一人一人が選んだ遊びのアンケート調査結果）から、全員の希望が一つは通るように、遊びを選ぶ」設問（第3学年「データの活用」の内容）は、57.4%の正答率（全国は63.9%）です。[問題番号3]（2）
- ◆「示されたポイント数（「輪投げ」のポイント数）の求め方を解釈し、他の場合のポイント数（「かくれんぼ」のポイント数）の求め方と答えを式や言葉を用いて書く」設問（第4学年「数と計算」の内容）は、61.1%の正答率（全国は67.7%）です。[問題番号3]（4）

◎算数における本市児童の課題は？

- ・表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めること。
- ・分類ごとに整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察すること。
- ・日常生活の問題を解決するために、数量の関係を式に表したり、式を読み取ったりすること。

小学校理科

【平均正答率】

	児童数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
小樽市	626	10.4/ 17	61
北海道	34,310	10.7/ 17	63
全国	965,761	10.8/ 17	63.3

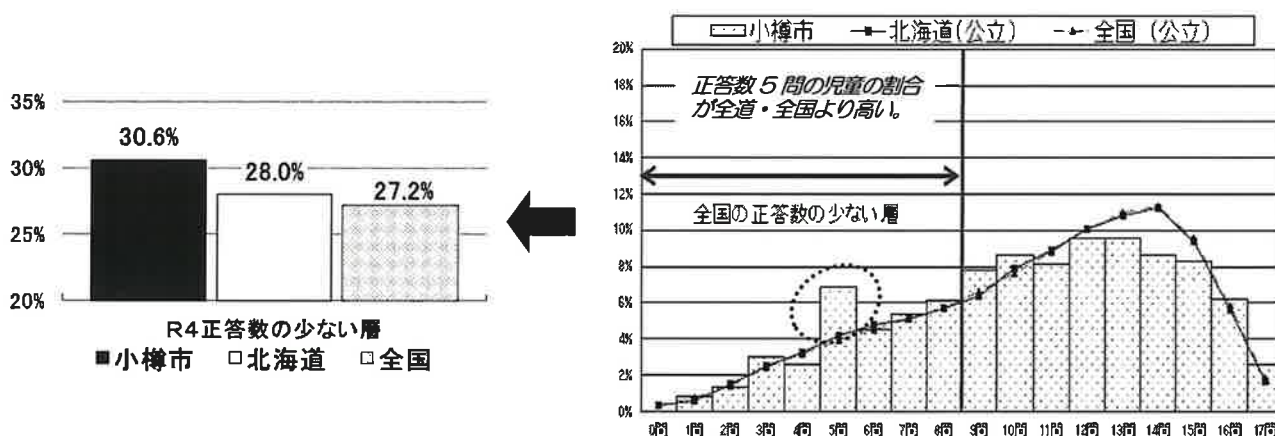
【領域別集計結果】

* □は、全国平均以上
下線は、全道平均以上

分類	区分	対象 設問数	平均正答率		
			小樽市	北海道 (公立)	全国 (公立)
学習指導要領 の領域等	エネルギー	4	49.8	51.2	51.6
	粒子	5	57.4	60.4	60.4
	生命	5	74.0	74.1	75.0
	地球	5	62.7	64.1	64.6

【「正答数分布状況」及び「全国の正答数の少ない層に含まれる児童の割合」】

正答数の少ない層（正答数8問以下）に含まれる児童の割合が30.6%で、全国と比べ3.4ポイント多い。



【設問別の正答率の概要】（◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題がみられる設問）

- ◇「昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ」設問（第3学年「『生命』を柱とする領域」の内容）は、78.0%の正答率（全国は73.1%）です。[問題番号1] (3)
- ◇「育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見いだすことができるかを問う」設問（第3学年「『生命』を柱とする領域」の内容）は、66.1%の正答率（全国は65.5%）です。[問題番号1] (5)
- ◆「資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ」設問（第3学年「『生命』を柱とする領域」の内容）は、70.3%の正答率（全国は76.1%）です。[問題番号1] (4)
- ◆「水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対する適切なまとめを選ぶ」設問（第4学年及び第5学年「『粒子』を柱とする領域」の内容）は、55.1%の正答率（全国は62.8%）です。[問題番号2] (3)
- ◆「鉄棒に付着していた水滴と水の粒は、何が変化したものかを書く」設問（第4学年「『粒子』を柱とする領域」及び「『地球』を柱とする領域」の内容）は、57.0%の正答率（全国は62.0%）です。[問題番号4] (4)

◎理科における本市児童の課題は？

- ・提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつこと。
- ・自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつこと。
- ・水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解していること。

中学校国語

【平均正答率】

	生徒数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
小樽市	618	9.6 / 14	69
北海道	32,910	9.6 / 14	69
全国	891,820	9.7 / 14	69.0

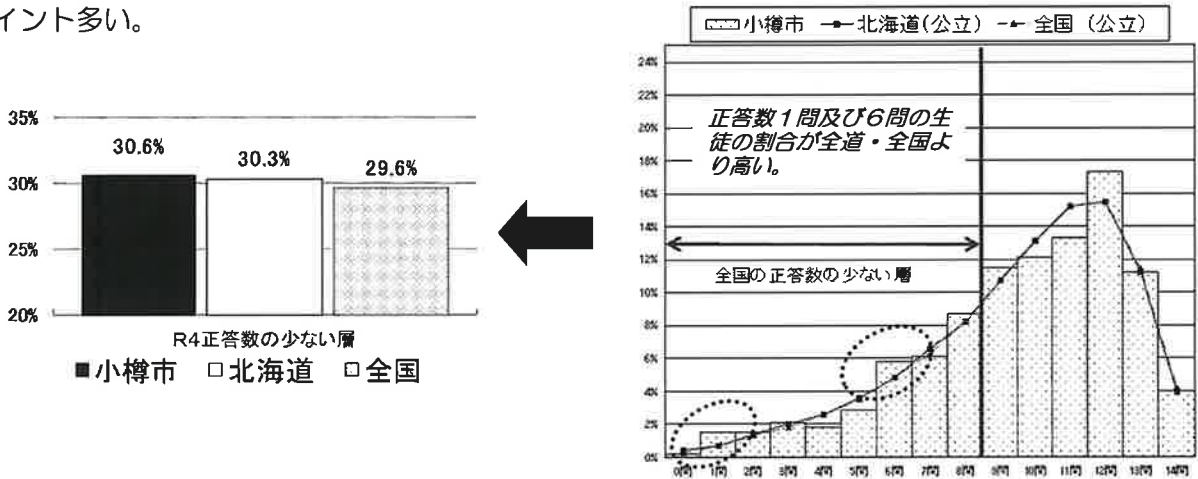
【領域別集計結果】

* □ は、全国平均以上
下線は、全道平均以上

分類	区分	対象 設問数	平均正答率		
			小樽市	北海道 (公立)	全国 (公立)
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	<u>64.3</u>	63.5	63.9
	書くこと	1	<u>47.2</u>	44.5	46.5
	読むこと	2	<u>67.8</u>	67.3	67.9
	言葉の特徴や使い方に 関する事項	6	71.5	72.1	72.2
	情報の使い方に 関する事項	1	<u>47.2</u>	44.5	46.5
	伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項	3	68.0	69.3	70.2

【「正答数分布状況」及び「全国の正答数の少ない層に含まれる生徒の割合」】

正答数が少ない層（正答数8問以下）に含まれる生徒の割合が30.6%で、全国と比べ1.0ポイント多い。



【設問別の正答率の概要】

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題がみられる設問

- ◇「スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す」設問（第1学年「話すこと・聞くこと」の内容）は、77.0%の正答率（全国は74.7%）です。[問題番号1一]
- ◇「『途方に暮れた』の意味として適切なものを選択する」設問（第1学年「言葉の特徴や使い方に
関する事項」の内容）は、85.3%の正答率（全国は84.0%）です。[問題番号3二]
- ◇「登場人物である『おれ』は、何を『なるほど』と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書
く」設問（第1学年「読むこと」の内容）は、74.9%の正答率（全国73.8%）です。[問題番号3四]
- ◆「スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く」設問（第1学
年「言葉の特徴や使い方に
関する事項」の内容）は、47.9%の正答率（全国は51.8%）です。[問
題番号1三]
- ◆「漢字を書く（のぞく）」設問（第2学年「言葉の特徴や使い方に
関する事項」との内容）は、78.8%
の正答率（全国は82.1%）です。[問題番号2二①]
- ◆「書き直した文字の『と』（行書）の書き方について説明したものとして適切なものを選択する」設
問（第2学年「我が国の言語文化に
関する事項」の内容）は、77.5%の正答率（全国は81.1%）で
す。[問題番号4三]

◎国語における本市生徒の課題は？

- ・自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すこと。
- ・文脈に即して漢字を正しく書くこと。
- ・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解すること。

中学校数学

【平均正答率】

	生徒数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
小樽市	616	6.4/ 14	46
北海道	32,905	6.9/ 14	49
全 国	891,913	7.2/ 14	51.4

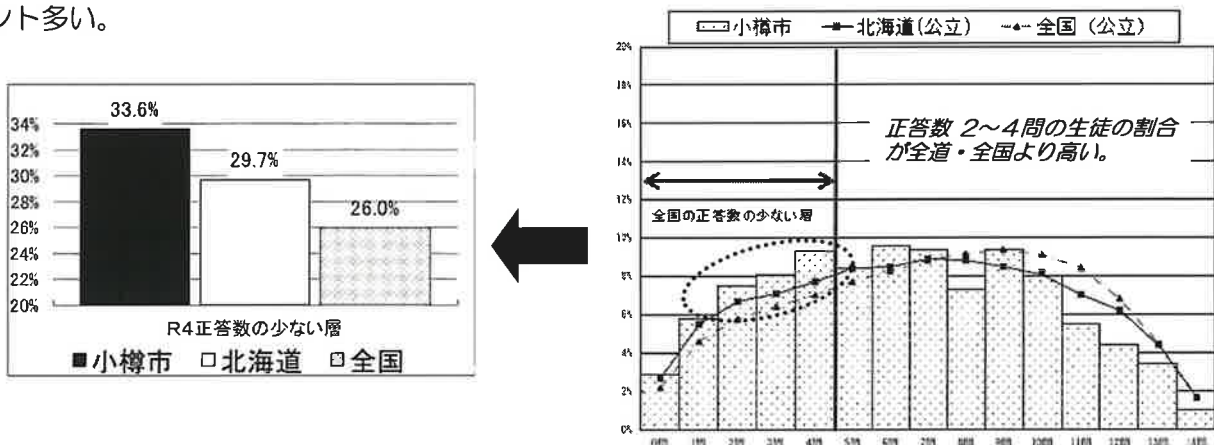
【領域別集計結果】

* □ は、全国平均以上
下線は、全道平均以上

分類	区分	対象 設問数	平均正答率		
			小樽市	北海道 (公立)	全国 (公立)
学習指導要領 の領域等	数と式	5	48.9	52.0	57.4
	図形	3	40.5	43.0	43.6
	関数	3	37.7	42.3	43.6
	データの活用	3	54.2	56.5	57.1

【「正答数分布状況」及び「全国の正答数の少ない層に含まれる生徒の割合」】

正答数の少ない層（正答数4問以下）に含まれる生徒の割合が33.6%で、全国と比べ7.6ポイント多い。



【設問別の正答率の概要】◇正答率が高い設問

◆正答率が低い等課題がみられる設問

- ◇「容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ」設問（第1学年「データの活用」の内容）は、83.0%の正答率（全国は83.3%）です。[問題番号5]
- ◇「同じ偶数の和である $2n+2n=4n$ について、 n が9のときどのような計算を表しているかを書く」設問（第2学年「数と式」の内容）は、71.3%の正答率（全国は73.8%）です。また、無回答率は、5.2%（全国は6.0%）です。[問題番号6] (1)
- ◆「42を素因数分解する」設問（第1学年「数と式」の内容）は、35.6%の正答率（全国は52.2%）です。[問題番号1]
- ◆「変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ」設問（第2学年「関数」の内容）は、30.0%の正答率（全国は37.9%）です。[問題番号4]
- ◆「差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する」設問（第2学年「数と式」の内容）は、38.8%の正答率（全国は48.7%）です。また、無回答率は29.2%（全国は20.0%）です。[問題番号6] (2)
- ◆「 $\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する」設問（第2学年「図形」の内容）は、10.1%の正答率（全国は12.5%）です。また、無回答率は、43.7%（全国は38.5%）です。[問題番号9] (2)

◎数学における本市生徒の課題は？

- 自然数を素数の積で表すこと。
- 一次関数の変化の割合の意味を理解すること。
- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること。
- 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明すること。

中学校理科

【平均正答率】

	生徒数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
小樽市	615	10.2/ 21	48
北海道	32,940	10.3/ 21	49
全 国	892,585	10.4/ 21	49.3

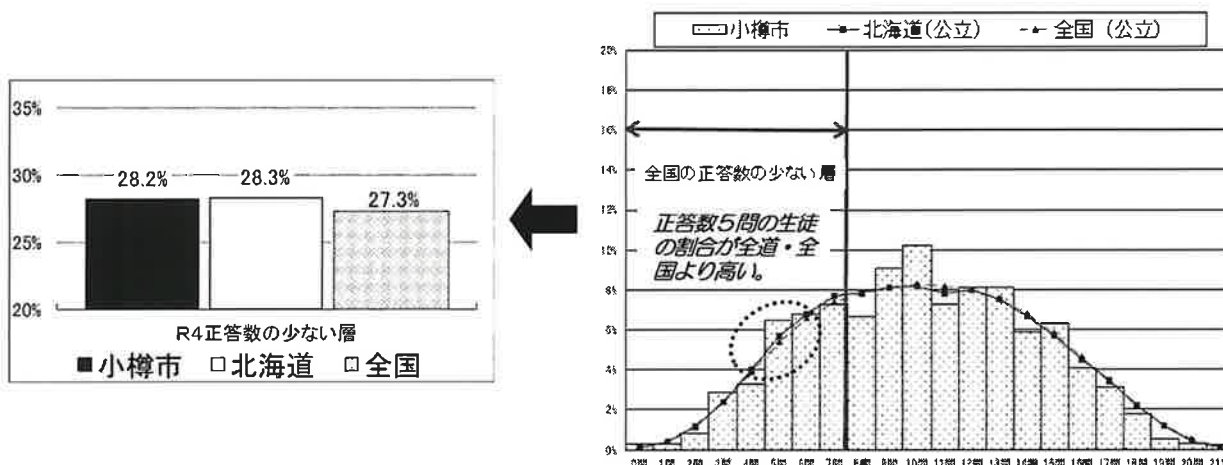
【領域別集計結果】

* □は、全国平均以上
下線は、全道平均以上

分類	区分	対象 設問数	平均正答率		
			小樽市	北海道 (公立)	全国 (公立)
学習指導要領 の領域等	エネルギー	6	40.9	41.9	41.9
	粒子	5	<u>51.0</u>	51.2	50.9
	生命	5	<u>56.8</u>	56.8	57.9
	地球	6	42.9	43.6	44.3

【「正答数分布状況」及び「全国の前答数の少ない層に含まれる生徒の割合」】

正答数の少ない層（正答数7問以下）に含まれる生徒の割合が28.2%で、全国と比べ0.9ポイント多い。



【設問別の正答率の概要】（◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題がみられる設問）

- ◇「タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する」設問（『エネルギー』を柱とする領域）の内容は、80.5%の正答率（全国は78.5%）です。[問題番号1]（2）
- ◇「水素を燃料として使うしくみの例の水の質の変化について、適切なものを選択する」設問（『粒子』を柱とする領域の内容）は、61.0%の正答率（全国は60.2%）です。[問題番号3]（2）
- ◇「脊椎動物には骨格のつくり共通点があることから、カラスの関節Aに対応するヒトとカエルのあしの関節を選択する」設問（『生命』を柱とする領域）の内容は、68.9%の正答率（全国は65.6%）です。[問題番号4]（2）
- ◆「気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する」設問（『地球』を柱とする領域）の内容は、36.3%の正答率（全国は40.8%）です。[問題番号2]（2）
- ◆「おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する」設問（『エネルギー』を柱とする領域）の内容は、8.6%の正答率（全国は15.3%）です。[問題番号5]（1）
- ◆「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する」設問（『エネルギー』を柱とする領域）の内容は、40.2%の正答率（全国は45.0%）です。[問題番号5]（2）

◎理科における本市生徒の課題は？

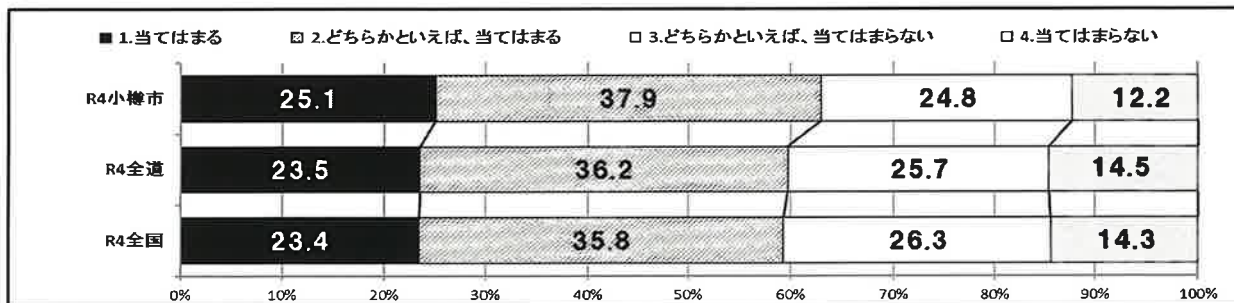
- ・継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈すること。
- ・力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明すること。
- ・課題に正対した考察を行うためにグラフを作成すること。

Ⅲ 児童生徒質問紙調査結果の概要

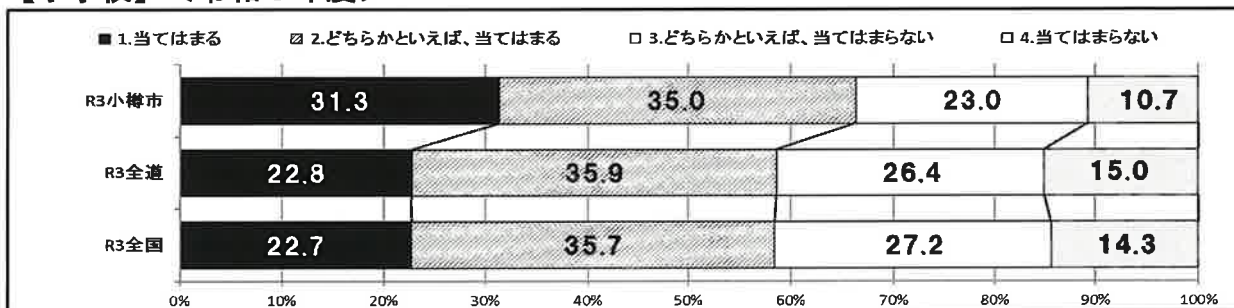
児童生徒質問紙調査は、子どもたちの学習意欲、学習方法、学習環境、生活面等に関する調査で、ここでは、本市の課題等の中で主なものを掲載しています。

1-1 国語の勉強は好きですか。 ※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

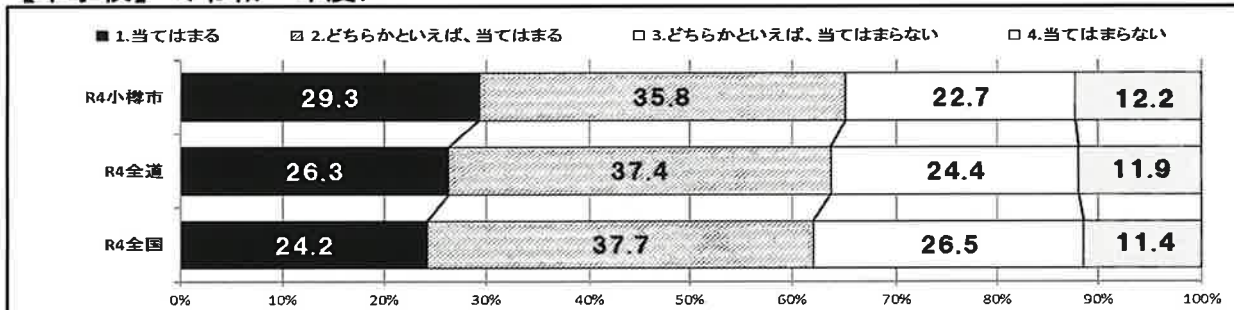
【小学校】＜令和4年度＞



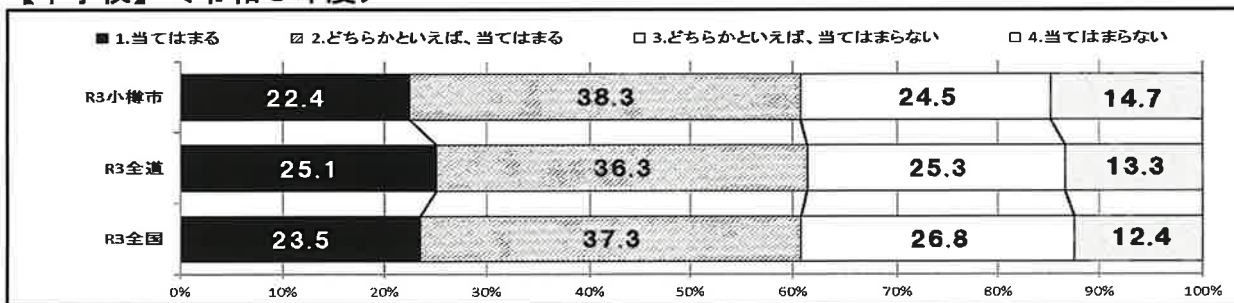
【小学校】＜令和3年度＞



【中学校】＜令和4年度＞



【中学校】＜令和3年度＞

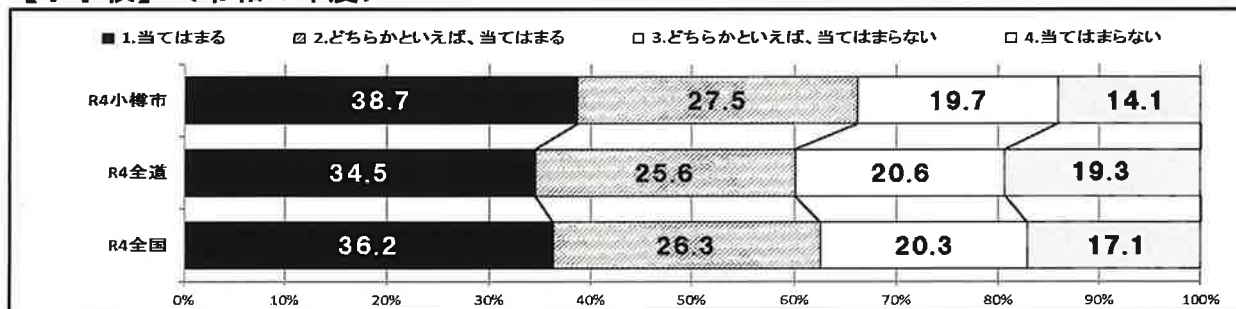


◎小・中ともに、全道・全国と比べ、国語の学習に対する意欲が高い。

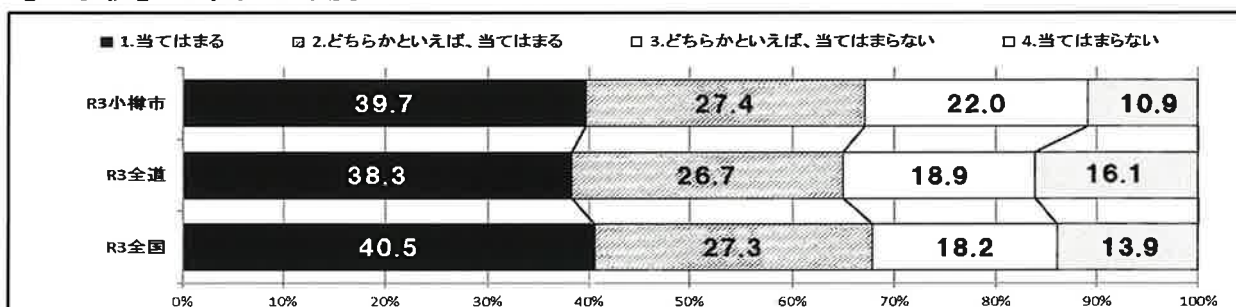
・小学校では、「好き・どちらかといえば好き」の割合が、63.0%で、全国（59.2%）と比べ、3.8ポイント高くなっています。また、中学校では、「好き・どちらかといえば好き」の割合が65.1%（全国は61.9%）であり、全国と比べ、3.2ポイント高くなっています。

1-2 算数・数学の勉強は好きですか。 ※「その他」「無回答」の数値は記載しておりませ

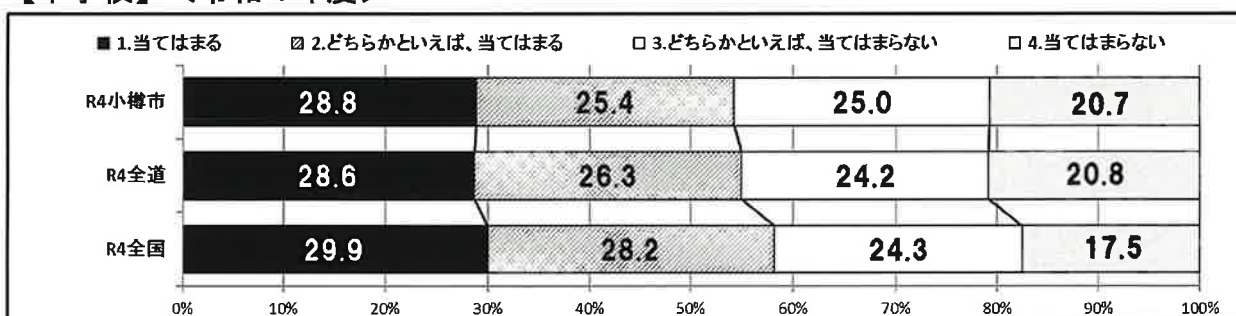
【小学校】＜令和4年度＞



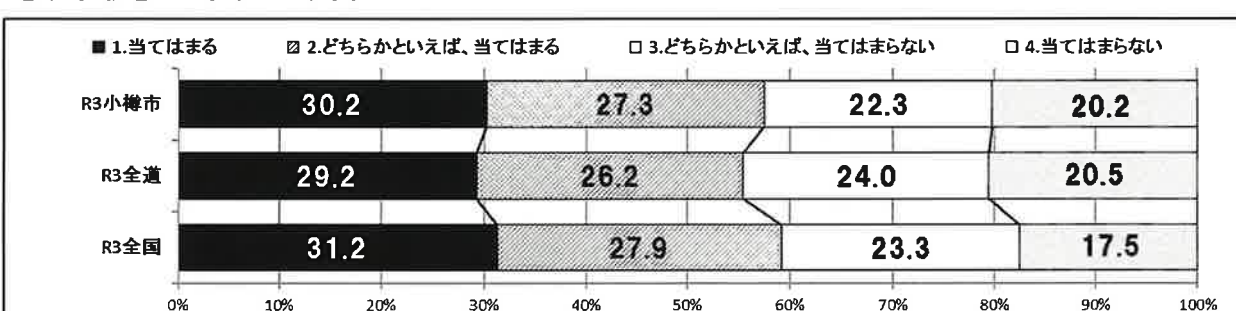
【小学校】＜令和3年度＞



【中学校】＜令和4年度＞



【中学校】＜令和3年度＞

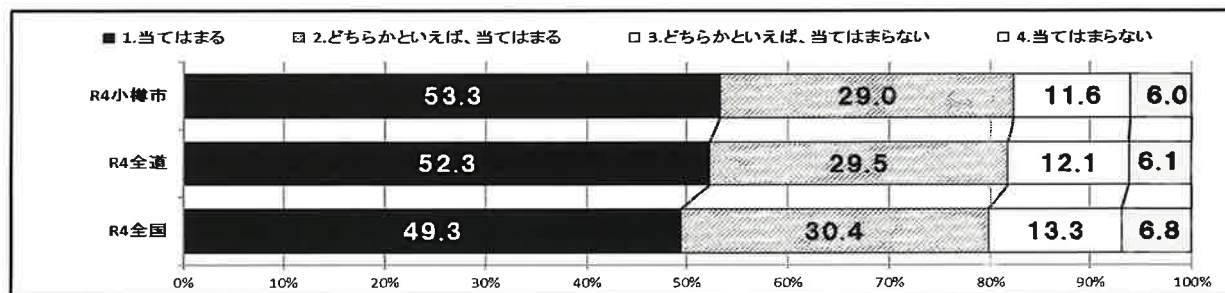


◎小学校は、全道・全国と比べ、算数の学習に対する意欲が高い。一方、中学校の数学は、学習に対する意欲に課題がある。

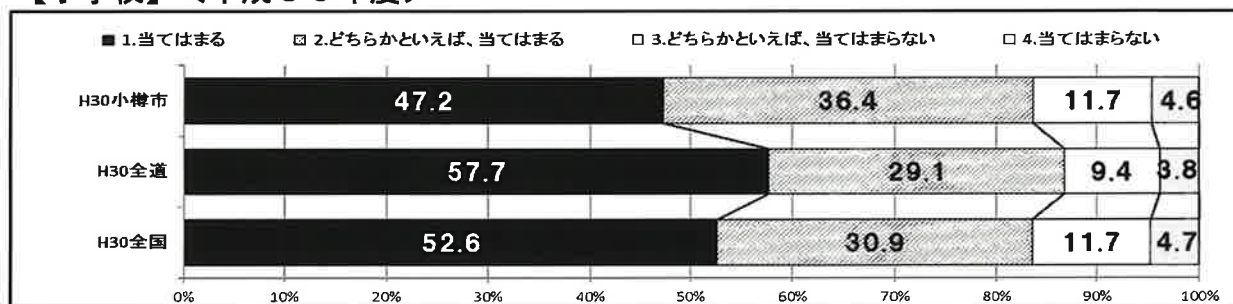
- ・小学校では、「好き・どちらかといえば好き」の割合が、66.2%で、全国（62.5%）と比べ、3.7ポイント高くなっています。また、中学校では、「好き・どちらかといえば好き」の割合が54.2%（全国は58.1%）であり、全国と比べ、3.9ポイント低くなっています。

1-3 理科の勉強は好きですか。 ※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

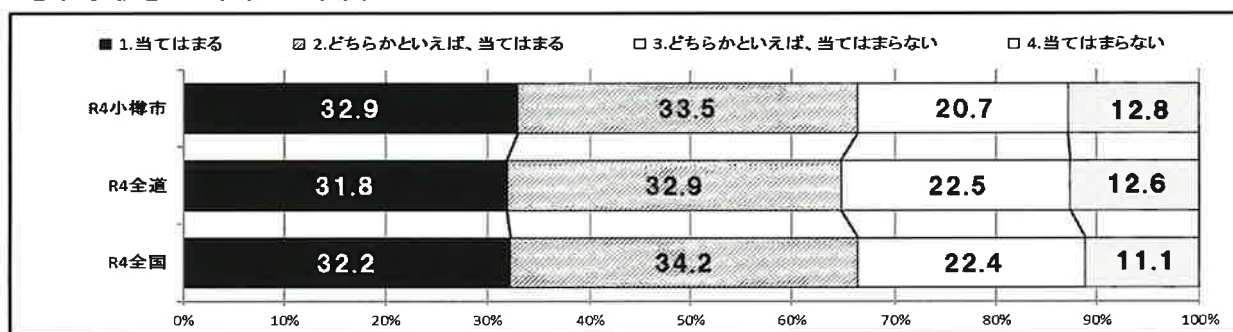
【小学校】＜令和4年度＞



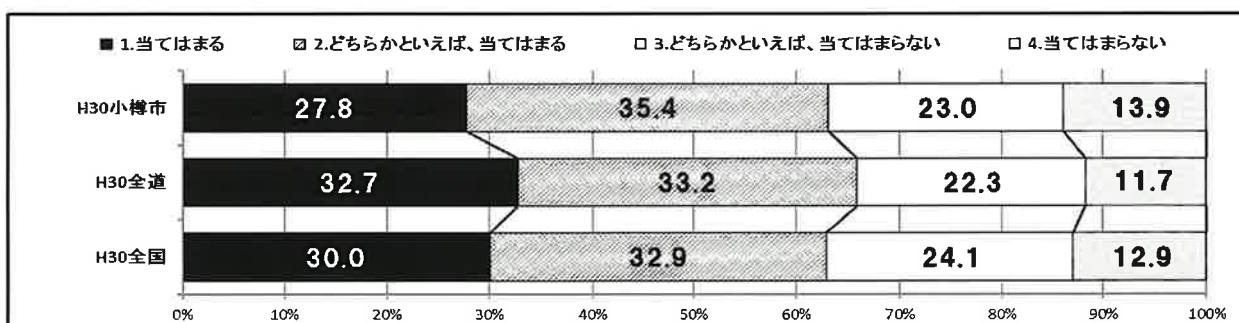
【小学校】＜平成30年度＞



【中学校】＜令和4年度＞



【中学校】＜平成30年度＞



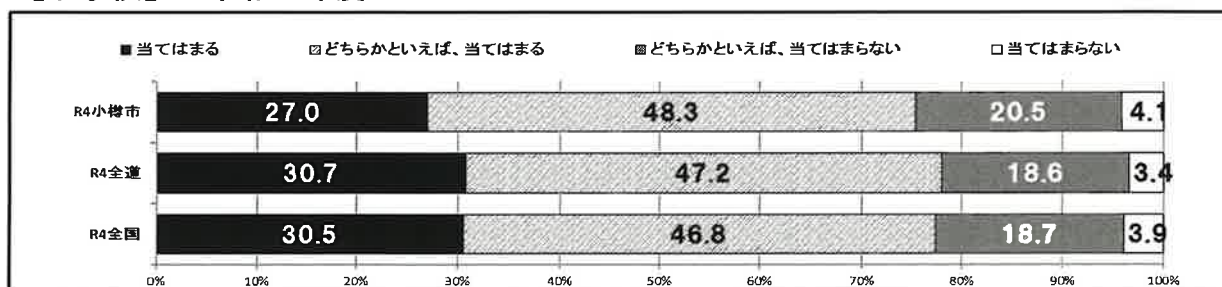
◎小学校は、全道・全国と比べ、理科の学習に対する意欲が高い。中学校は、理科の学習に対する意欲が全道より高く、全国と同程度である。

・小学校では、「好き・どちらかといえば好き」の割合が、82.3%で、全国（79.7%）と比べ、2.6ポイント高くなっています。また、中学校では、「好き・どちらかといえば好き」の割合が66.4%（全国は66.4%）であり、全国と同じポイントになっています。

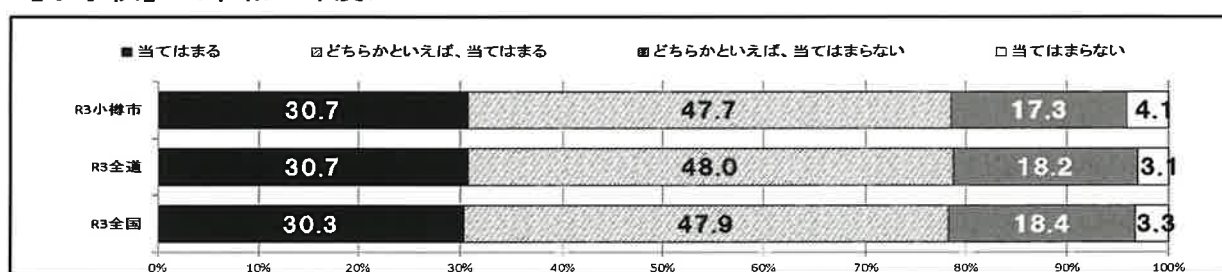
2 5年生まで（中学校は1、2年生まで）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

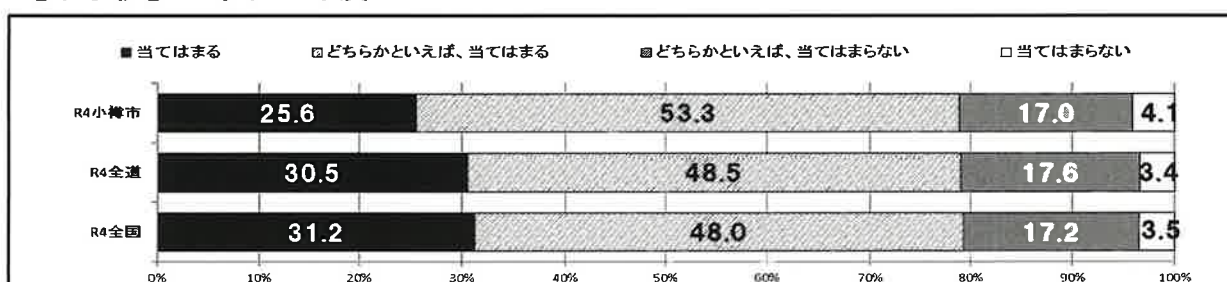
【小学校】＜令和4年度＞



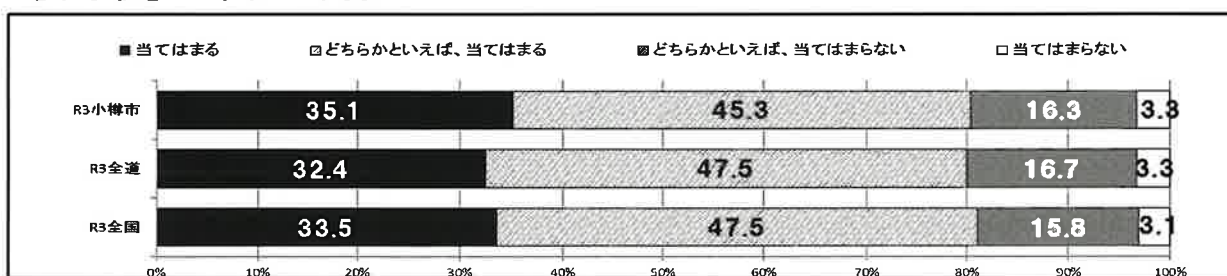
【小学校】＜令和3年度＞



【中学校】＜令和4年度＞



【中学校】＜令和3年度＞



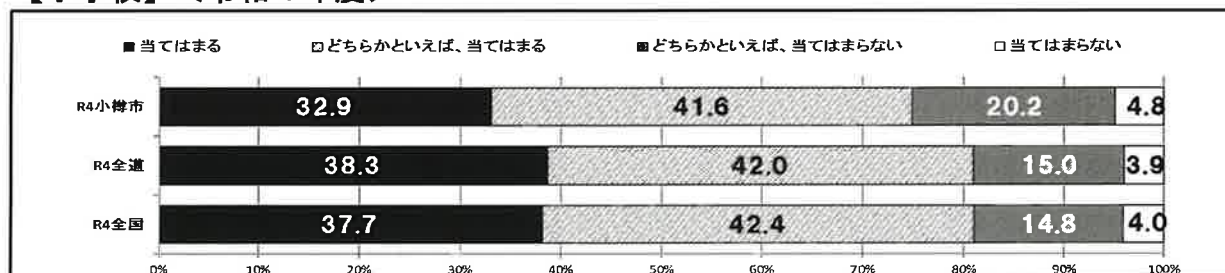
◎課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと思う割合は、小学校は全道・全国より低く、中学校は同程度である。

- ・小学校では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合が、75.3%で、全国（77.3%）と比べ、2.0ポイント低く、中学校の割合は、78.9%で、全国（79.2%）と比べ、0.3ポイント低い。
- ・本市においては、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合が、小学校で前回調査よりも3.1ポイント低く、中学校で1.5ポイント低くなっていることから、課題を明確に示すとともに、自分で考え、自分から取り組む時間をしっかりと確保した授業を展開する必要がある。

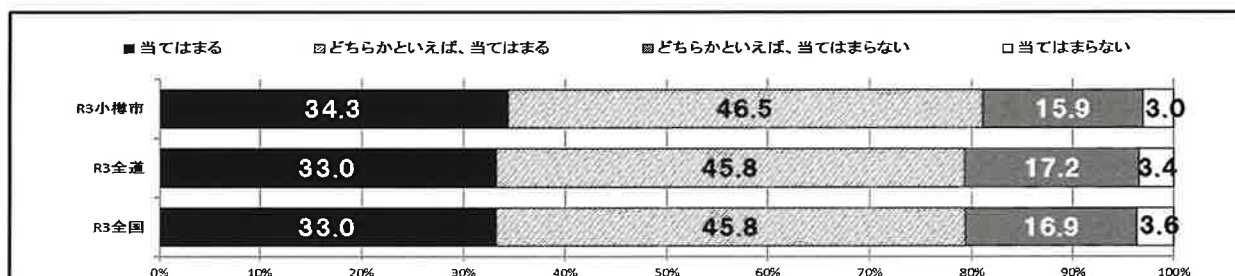
3 学級の友達との（中学校は生徒の）間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

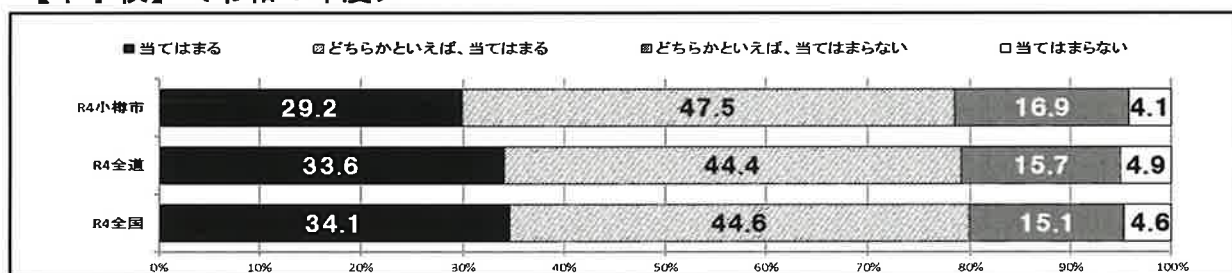
【小学校】＜令和4年度＞



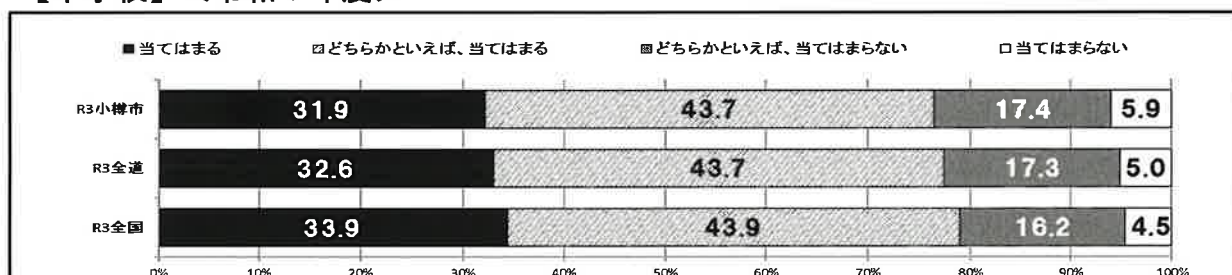
【小学校】＜令和3年度＞



【中学校】＜令和4年度＞



【中学校】＜令和3年度＞



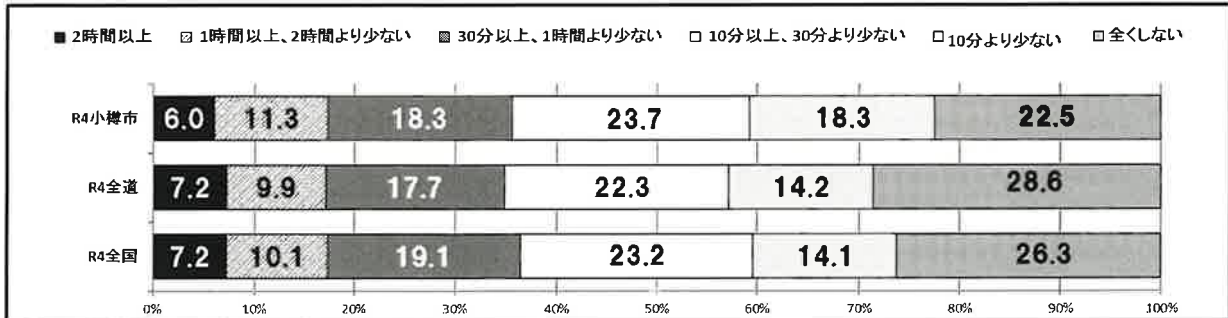
◎前回調査と比べ、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う割合は、小学校で低く、中学校で高くなっている。

- ・小学校では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」の割合が74.5%で、全国（80.1%）と比べ、5.6ポイント低く（令和3年度は2.0ポイント高い）、中学校の割合は76.7%で、全国（78.7%）と比べ、2.0ポイント低く（令和3年度は2.2ポイント低い）なっています。
- ・特に、小学校において、単元の中に話し合う活動を取り入れ、自分の考えを深めたり、広げたりする授業展開を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善を図る必要があります。

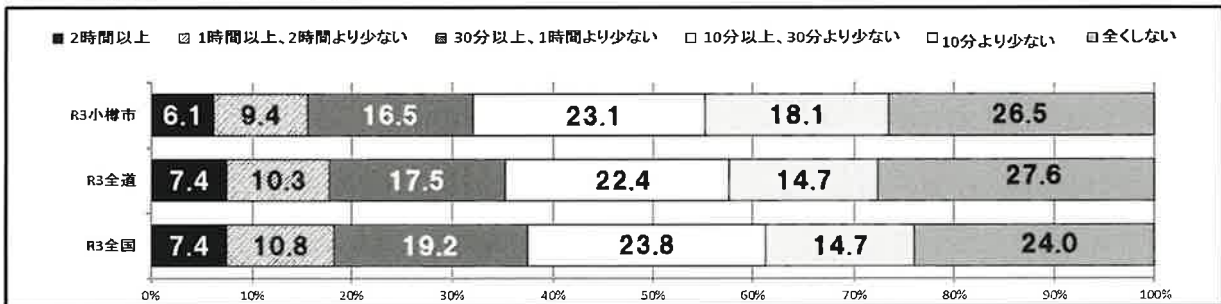
4 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

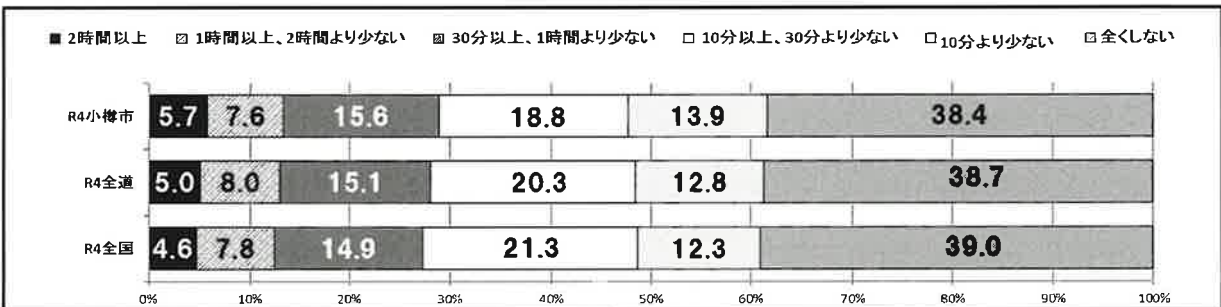
【小学校】＜令和4年度＞



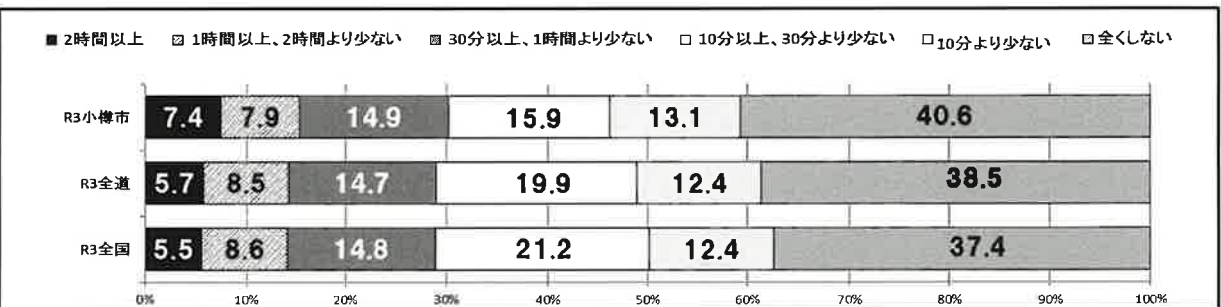
【小学校】＜令和3年度＞



【中学校】＜令和4年度＞



【中学校】＜令和3年度＞

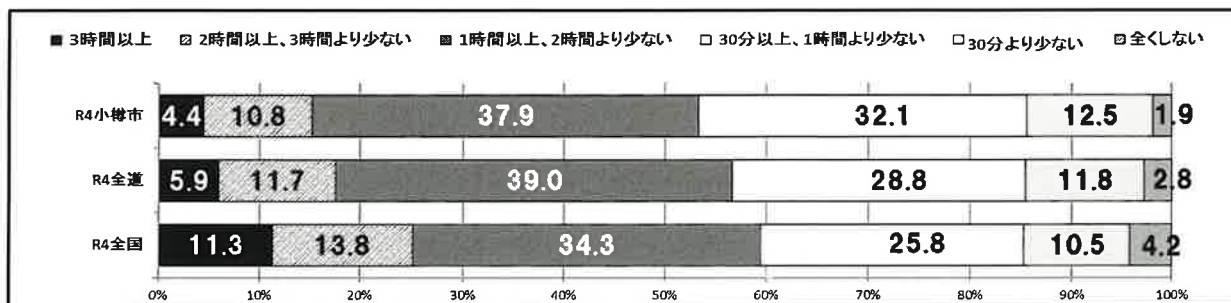


◎全国と比べ、学校の授業時間以外の読書の時間が多い。

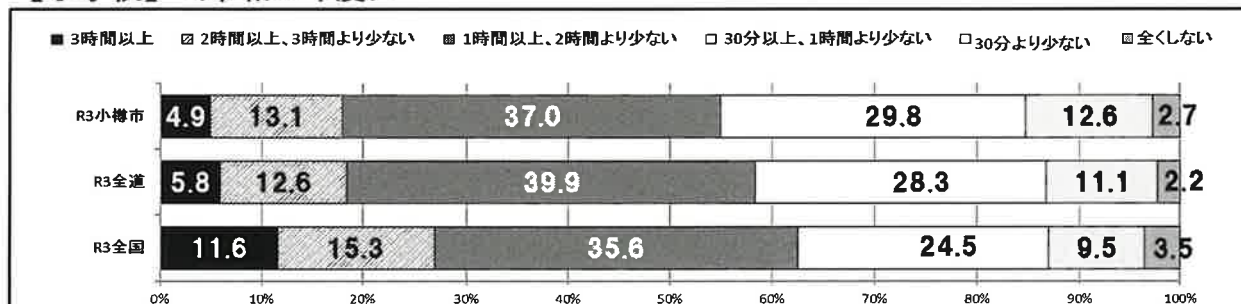
- ・1日に読書を「全くしない」割合は、小学校は22.5%で、全国（26.3%）に比べ、3.8ポイント低く（前回調査は、2.5ポイント高い）、中学校は38.4%で、全国（39.0%）と比べ、0.6ポイント低く（前回調査は、3.2ポイント高い）なっています。
- ・小中学校ともに、学校図書館司書の配置等により、本に親しむ環境が改善されたことや教科書教材と類似した作品を読む活動等を行った結果、全国・全道と比べ、学校の授業時間以外の読書の時間が多いという結果になりました。

5 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）。 ※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

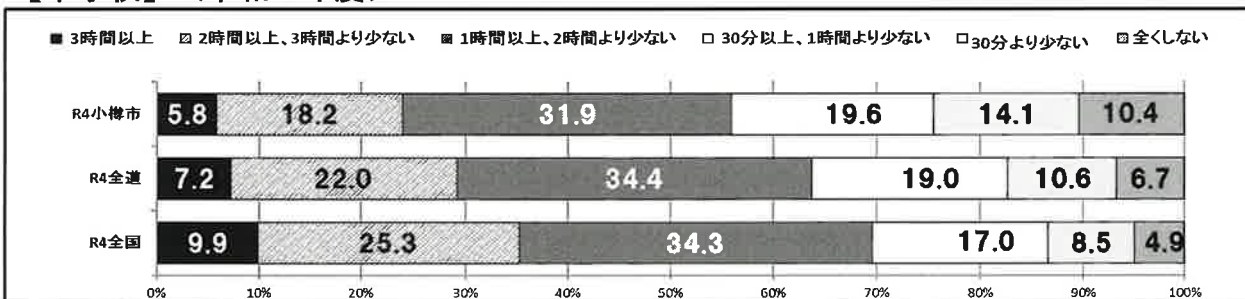
【小学校】＜令和4年度＞



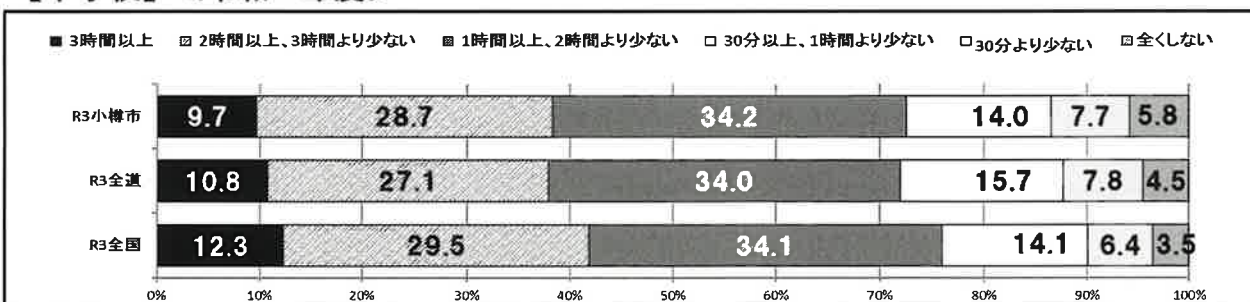
【小学校】＜令和3年度＞



【中学校】＜令和4年度＞



【中学校】＜令和3年度＞

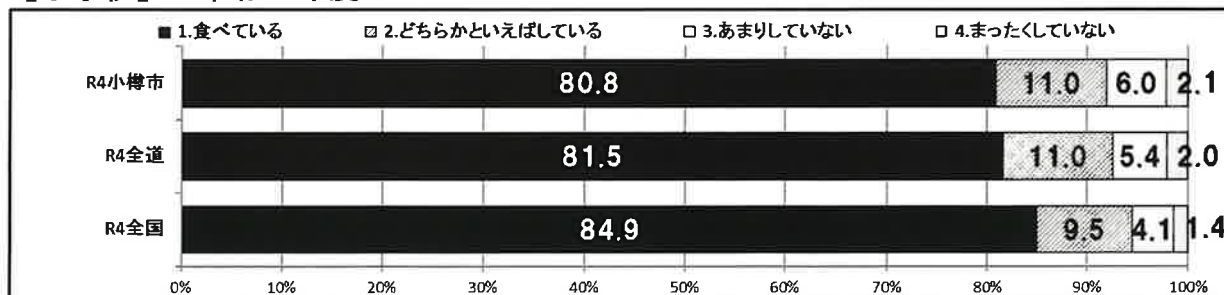


◎小・中ともに平日の学習時間に大きな課題がある。

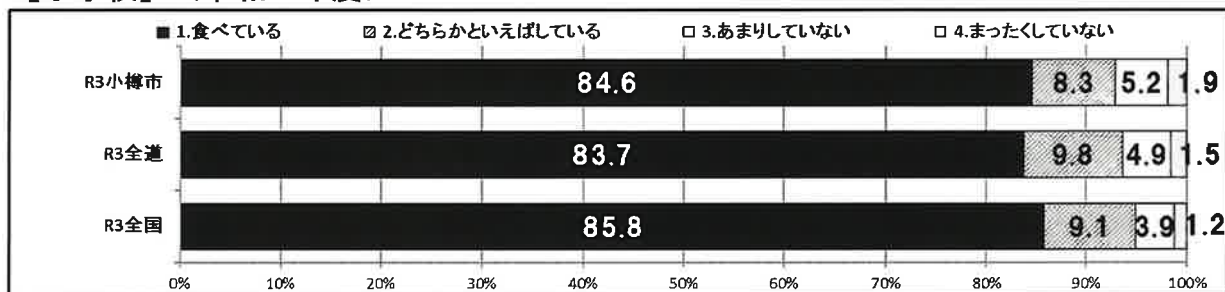
- ・小学校で「1日に1時間以上勉強する」割合は53.1%であり、全国（59.4%）と比べ6.3ポイント低く、中学校で「1日に2時間以上勉強する」割合は24.0%であり、全国（35.2%）と比べ11.2ポイント低くなっています。
- ・小中学校ともに全国を大きく下回っているほか、特に中学校では「全くしない」と回答した割合が全国の2倍を超えています。今後も、家庭と学校が協力して学習時間の質と量の改善に努める必要があります。

6 朝食を毎日食べていますか。 ※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

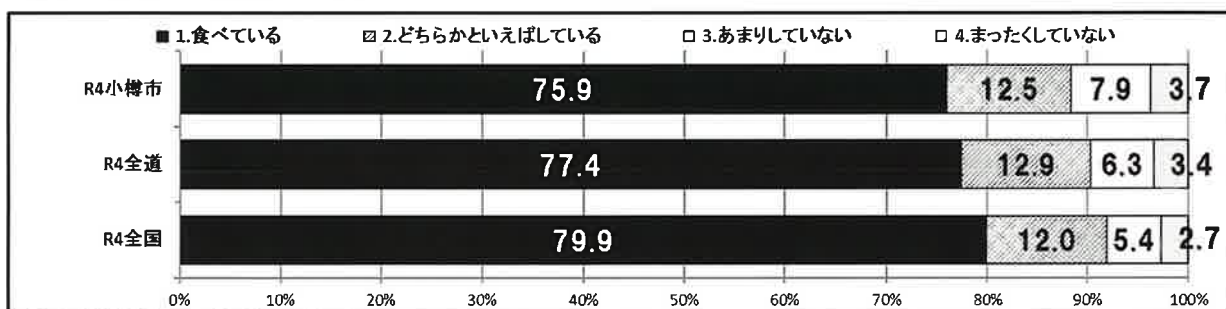
【小学校】＜令和4年度＞



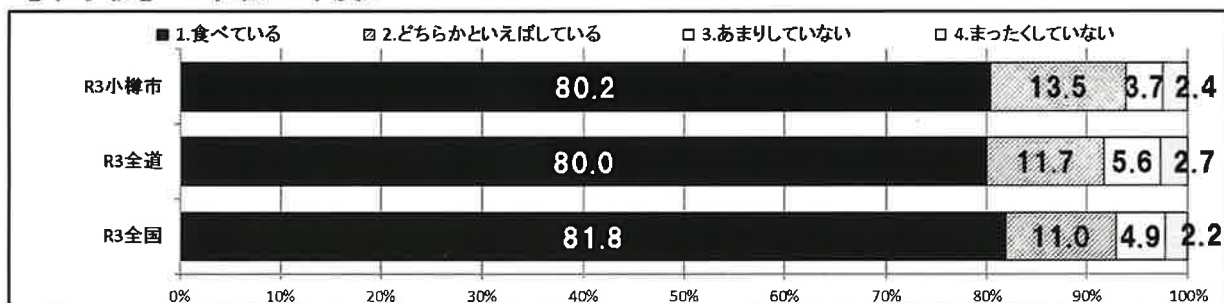
【小学校】＜令和3年度＞



【中学校】＜令和4年度＞



【中学校】＜令和3年度＞

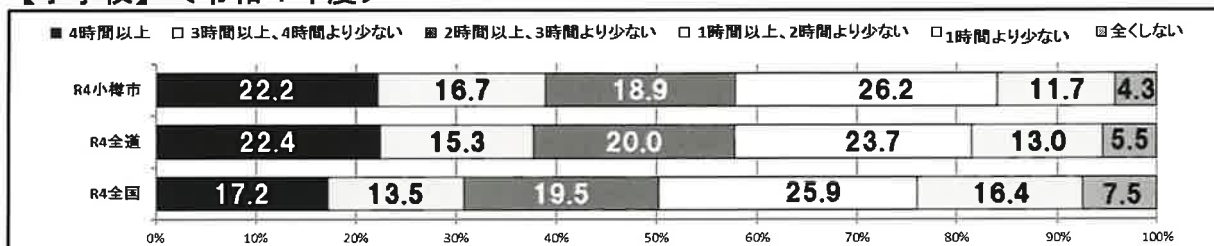


◎小・中ともに、朝食を毎日食べている割合が減っている。

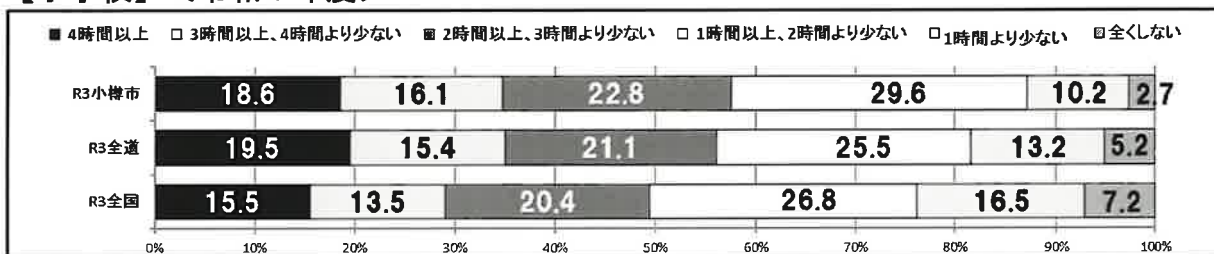
- ・「食べている」割合は、前回調査と比べ、小学校で3.8ポイント、中学校で4.3ポイント低くなっています。
- ・小中学校ともに、前回調査と比べ、朝食を食べている割合が減っているほか、全国よりも低くなっております。毎日を元気に楽しく過ごすためには、早寝早起きをして朝ごはんを食べることが大切です。今後も引き続き、地域や家庭との連携を強化し、健やかな体づくりと望ましい生活習慣の確立する必要があります。

7 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか。 ※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

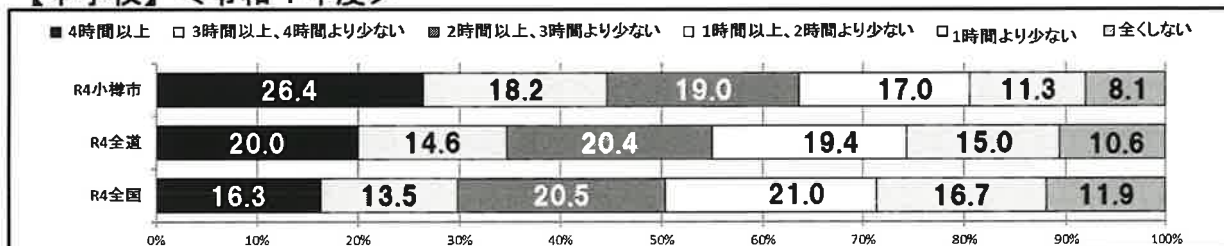
【小学校】＜令和4年度＞



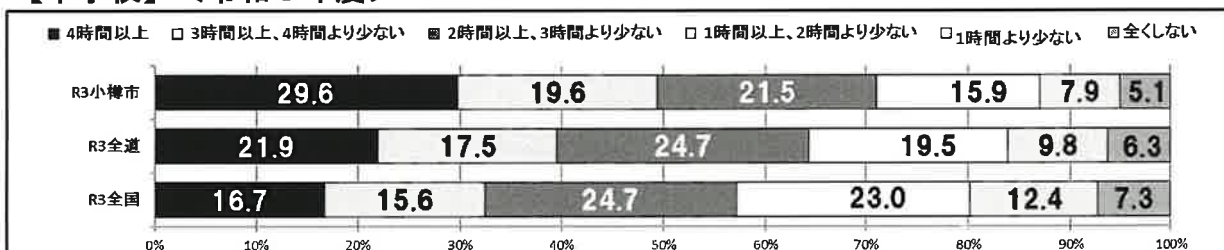
【小学校】＜令和3年度＞



【中学校】＜令和4年度＞



【中学校】＜令和3年度＞



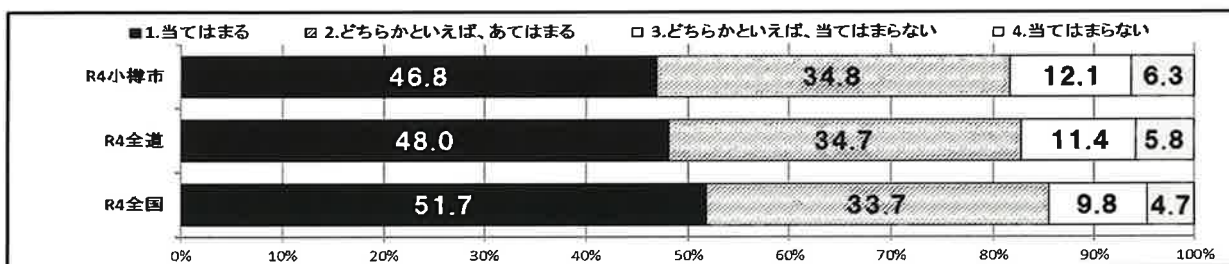
◎全国と比べ、ゲームをしている時間が長い児童生徒が多い。

- ・「4時間以上している」割合は、全国に比べ、小学校は5.0ポイント、中学校は10.1ポイント高くなっています。また、「1時間より少ない」割合は、全国に比べ、小学校は7.9ポイント、中学校は9.2ポイント低くなっています。
- ・小中学校ともに、全国よりもゲームをしている時間が長くなっており、家庭学習や睡眠の時間を圧迫するなど、学習習慣や生活習慣の乱れに影響を与えるものと考えられます。学校と家庭が連携しながら、電子メディア（テレビ、ゲーム機、コンピュータ、携帯電話、スマートフォン等）との関わり方を児童生徒が自ら考え、使用時間を制限するなどの取組を一層強化するなどして生活習慣の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の家庭学習の取組を点検し、個に応じた働きかけを行う必要があります。

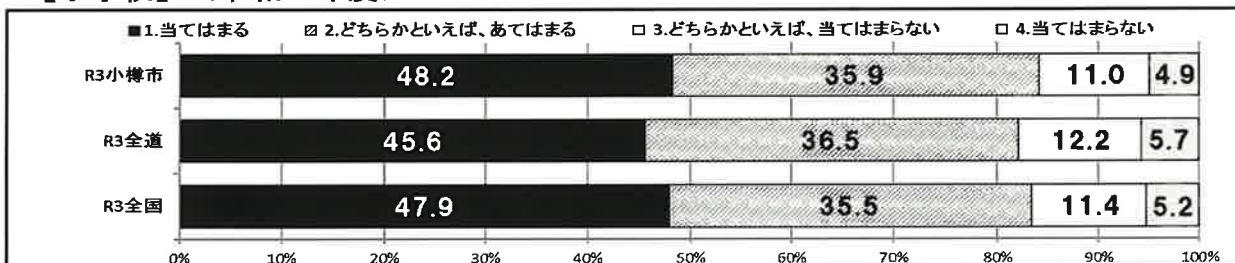
8 あなたは学校に行くのは楽しいと思いますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

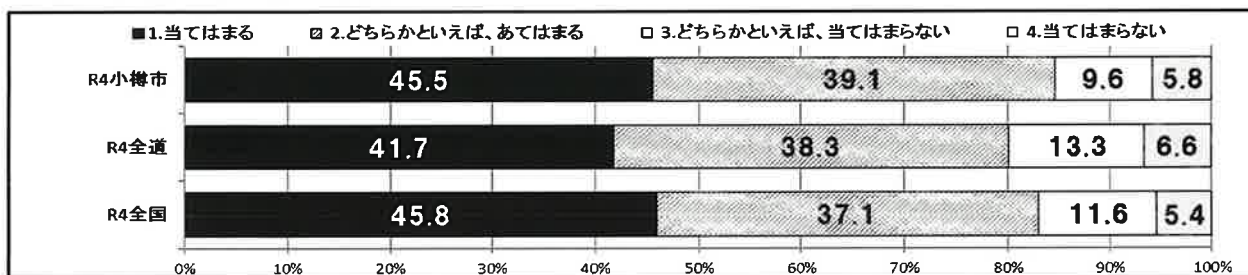
【小学校】＜令和4年度＞



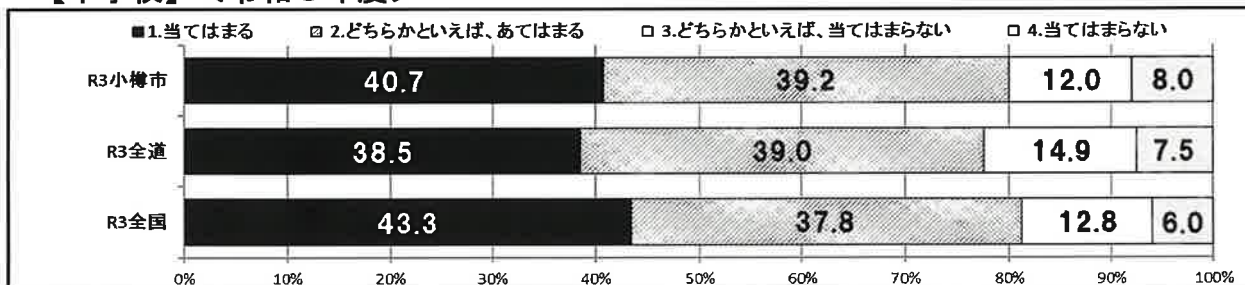
【小学校】＜令和3年度＞



【中学校】＜令和4年度＞



【中学校】＜令和3年度＞



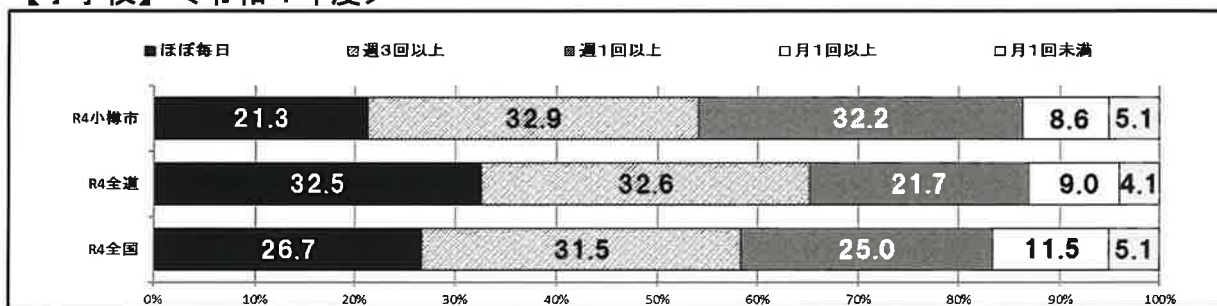
◎小学生の8割以上が楽しく学校に通っていると回答している。
中学生は、全国・全道と比べ、楽しく学校に通っている生徒が多い。

- ・「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童は、小学校で81.6%であり、全国（85.4%）と比べ、3.8ポイント低い。一方、中学校は84.6%であり、全国（82.9%）と比べ、1.7ポイント高い。
- ・「学校に行くのが楽しい」と感じている小学生の割合は全道・全国よりも低く、中学生は全道・全国よりも割合が高い。市内の小中学校は、今後も「小樽授業づくりの5つのSTEP!!」を授業展開に確実に位置付けるなどして、子どもたちに「わかる」「できる」実感をもたせられる授業づくりに努める必要がある。

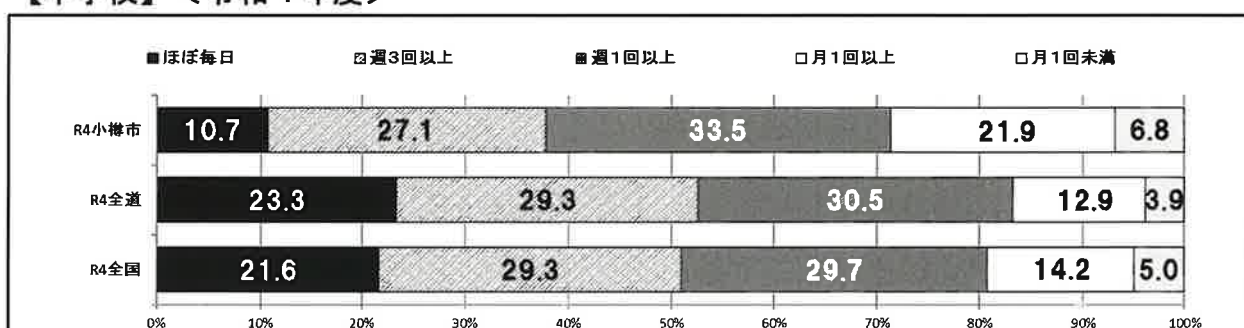
9-1 5年生までに（中学校は1、2年生のときに）受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

【小学校】<令和4年度>



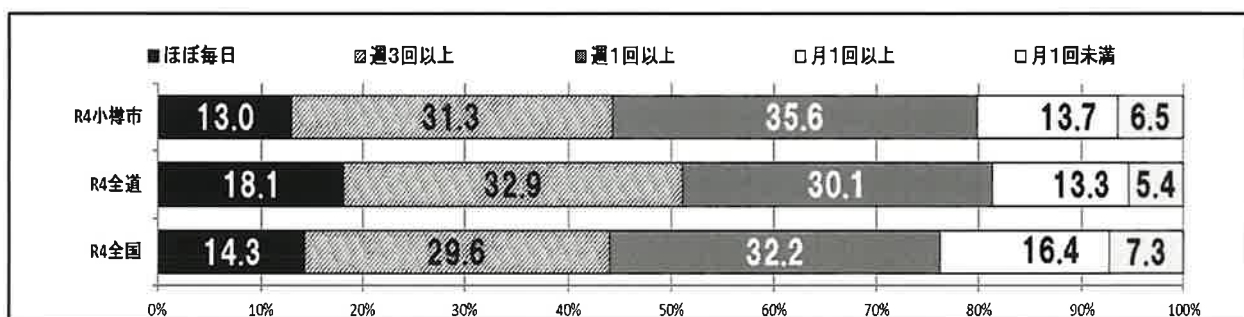
【中学校】<令和4年度>



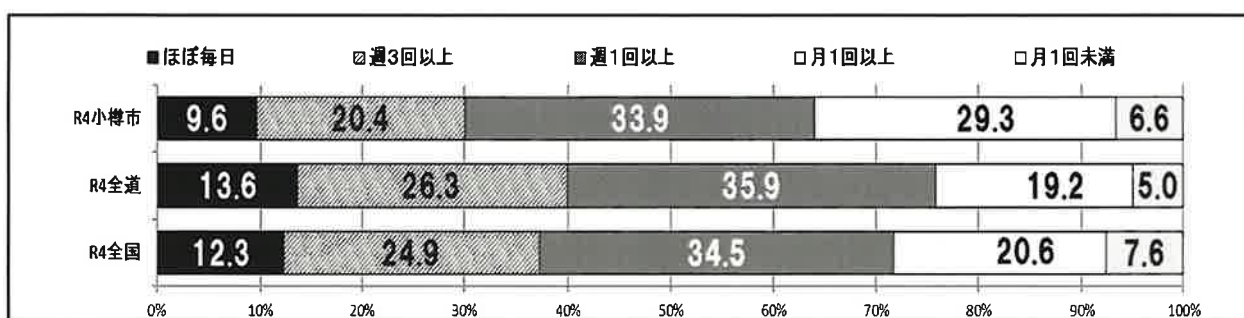
9-2 学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

【小学校】<令和4年度>

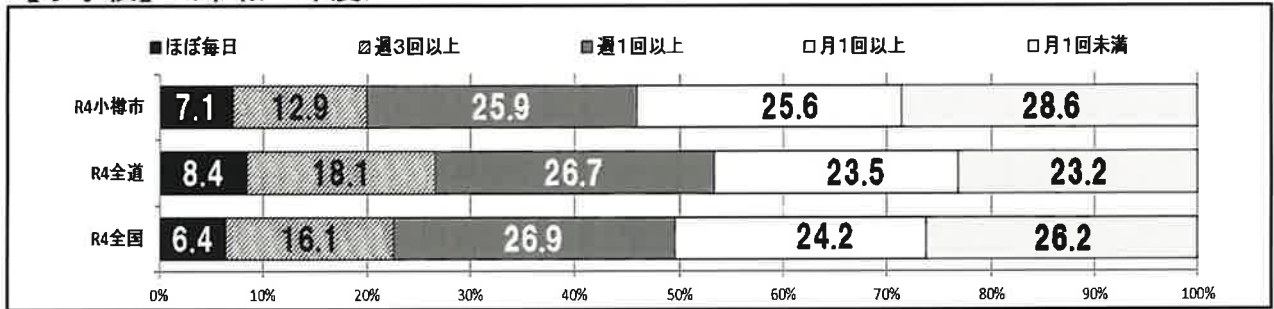


【中学校】<令和4年度>

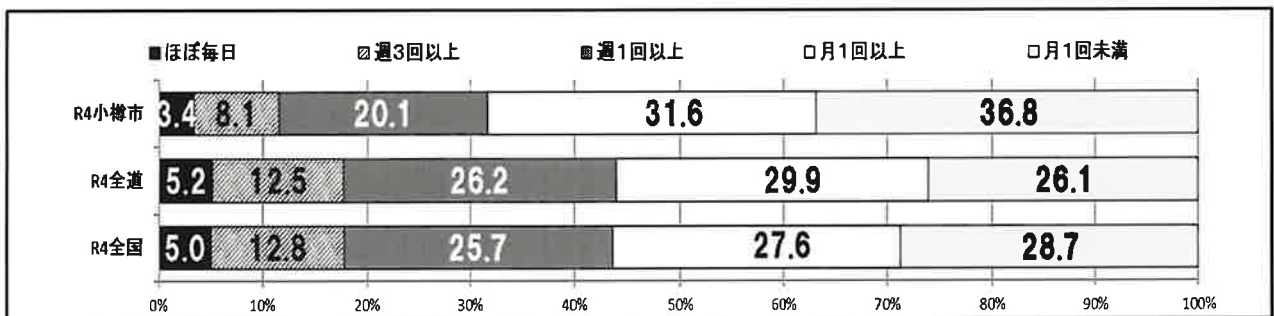


9-3 学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。
 ※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

【小学校】<令和4年度>

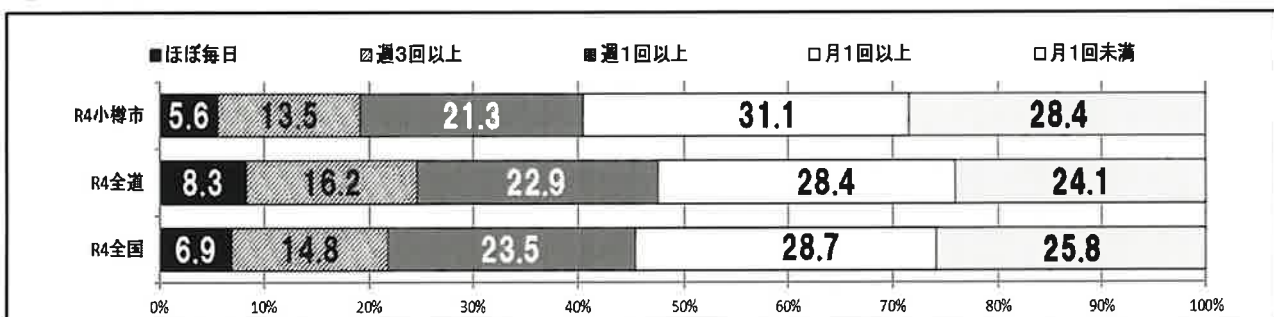


【中学校】<令和4年度>

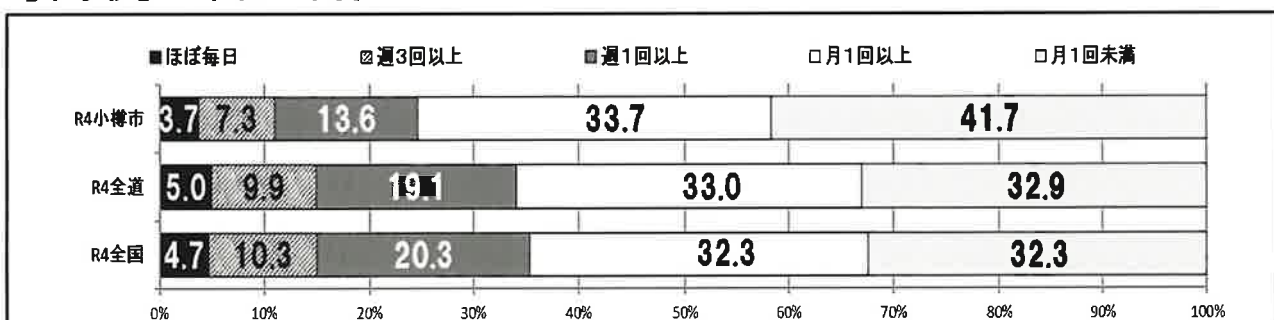


9-4 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。
 ※「その他」「無回答」の数値は記載していません。

【小学校】<令和4年度>



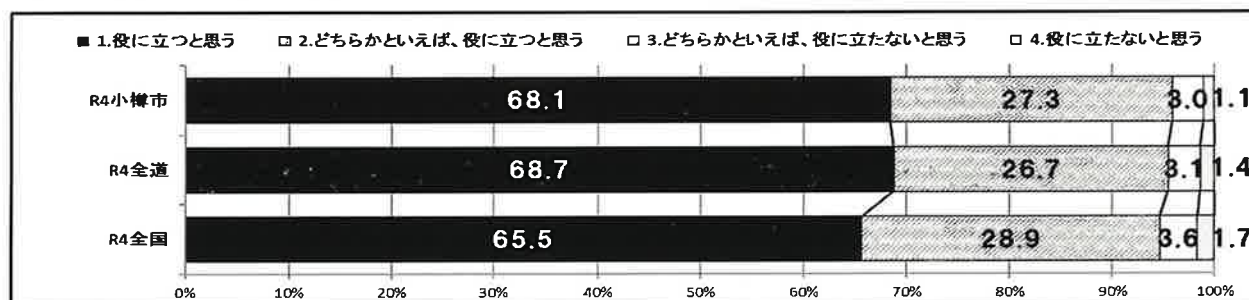
【中学校】<令和4年度>



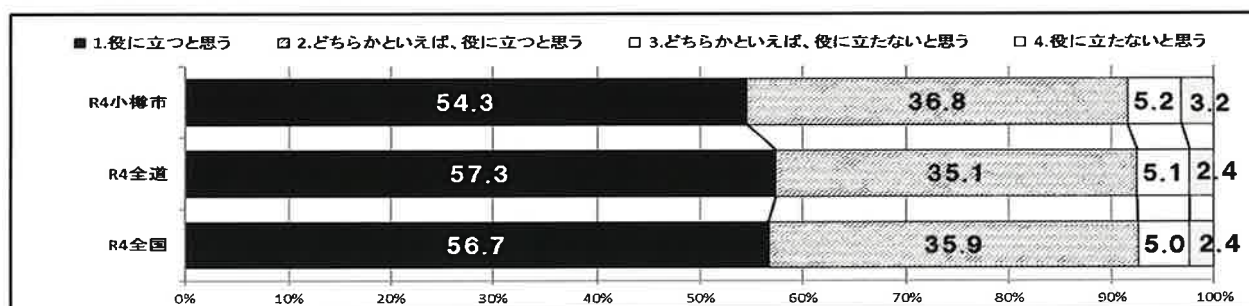
9-5 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

※「その他」「無回答」の数値は記載しておりません。

【小学校】<令和4年度>



【中学校】<令和4年度>



◎GIGAスクール構想元年だった令和3年度においては、PC・タブレットなどのICT機器の活用頻度は、全国・全道と比べ、高くはないが、学習にICT機器を使うことは勉強の役に立つと思っている児童生徒は、小中ともに9割を超えており、高い割合となっている。

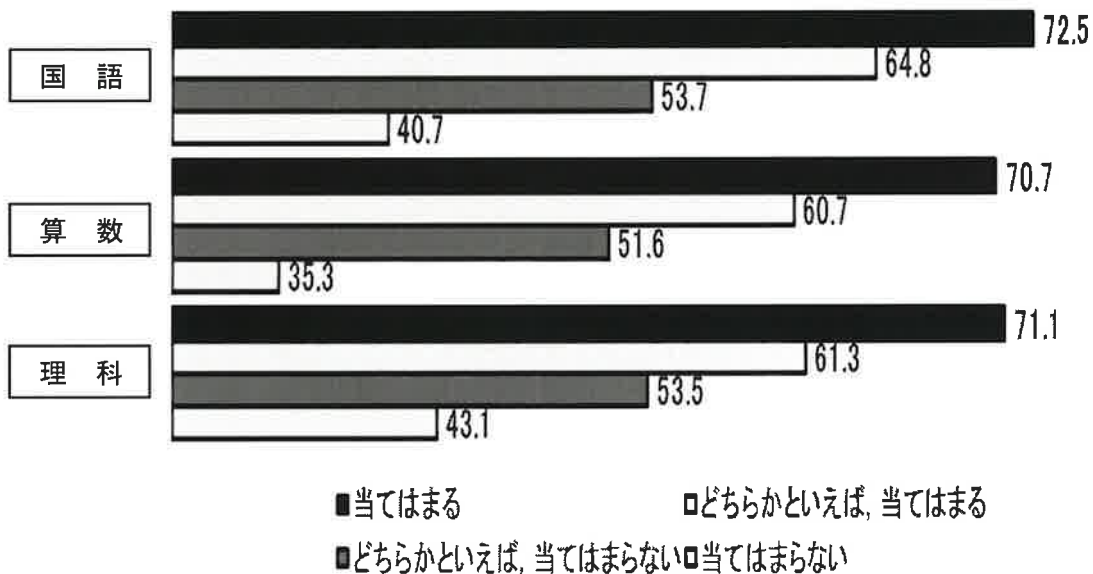
- ICT機器の活用頻度は、「ほぼ毎日」の割合は、小学校で21.3%であり、全国（26.7ポイント）と比べ、5.4ポイント低い。中学校は10.7%であり、全国（21.6ポイント）と比べ、10.9ポイント低い。
- 授業中のICT機器の活用場面において、全国と比べて、「ほぼ毎日」の割合が唯一高かったのは、小学校の「学級の友達と意見交換する場面での活用」であり（小樽市7.1%、全国6.4%）、Googleアプリケーションのうち、Jamboardの共同編集機能を活用した授業を推進する学校が増えていることがうかがえる。
- 学習にICT機器を使うことは勉強の役に立つかという質問に対し、「役に立つと思う」、「どちらかといえば、役に立つと思う」と回答した割合は、小学校で95.4%（全国94.4%）、中学校で91.1%（全国92.6%）であり、小中ともに9割以上の児童生徒が肯定的な回答をしている。
- 市内各校においては、1人1台端末が配備されて以来、活用促進に向けた校内研修に取り組むなど各校が創意工夫しながら取組を進めているが、より一層の活用に向けて、端末活用推進チームやICT支援員の派遣により、1人1台端末の効果的な授業実践例を普及させる取組を継続するなどして、児童生徒一人一人の情報活用能力を育む取組を推進する必要がある。

IV 児童生徒質問紙調査結果と平均正答率との相関

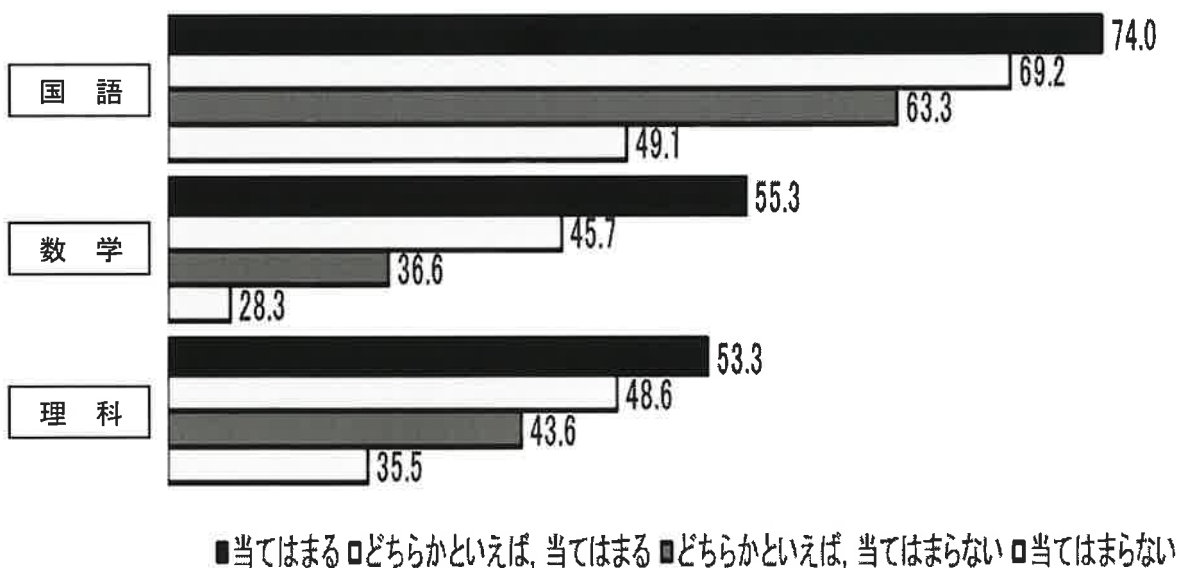
ここでは、本年度の児童生徒質問紙の回答と平均正答率との相関について、6点について掲載しています。

- 1 「5年生までに（中学校は1、2年生のときに）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られる。

【小学校】

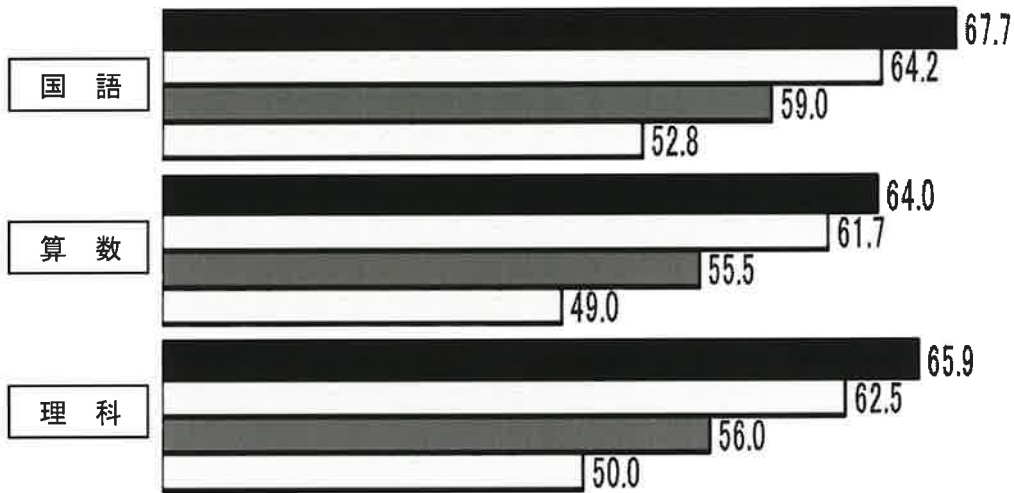


【中学校】



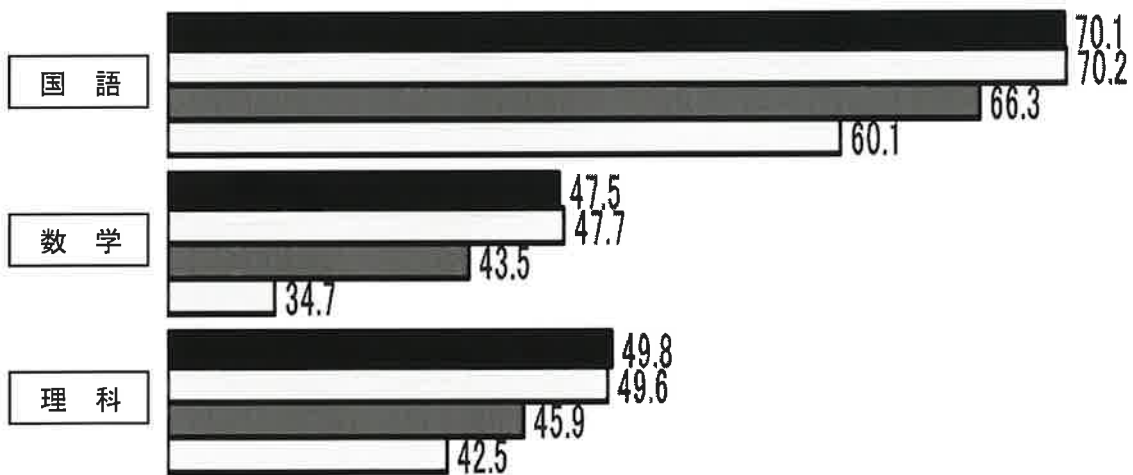
2 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られる。

【小学校】



■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

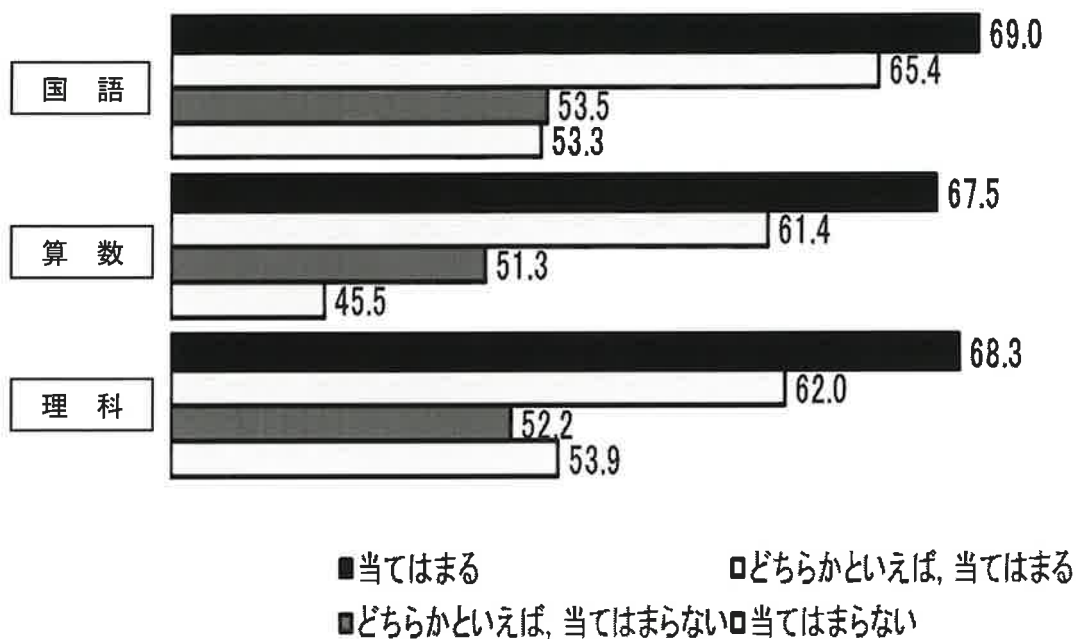
【中学校】



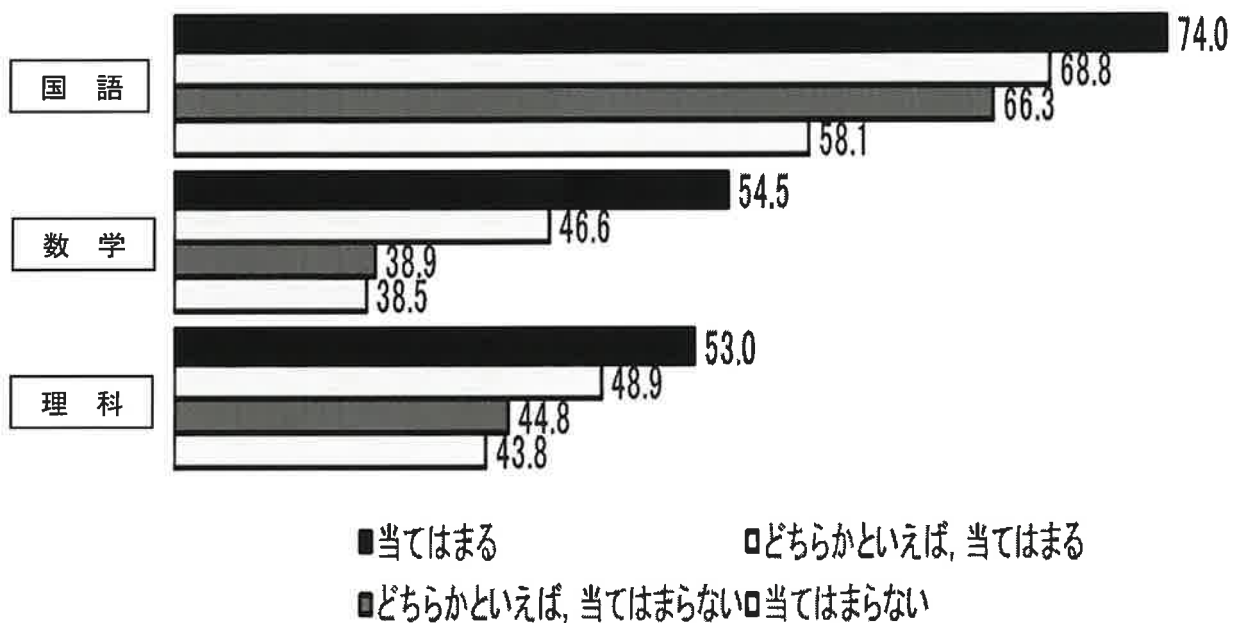
■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる
 ■どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

3 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られる。

【小学校】

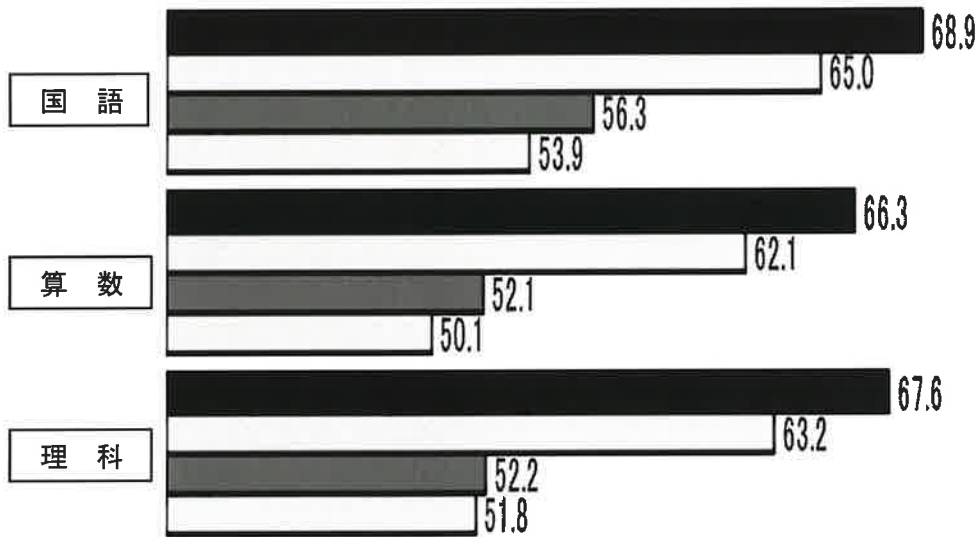


【中学校】



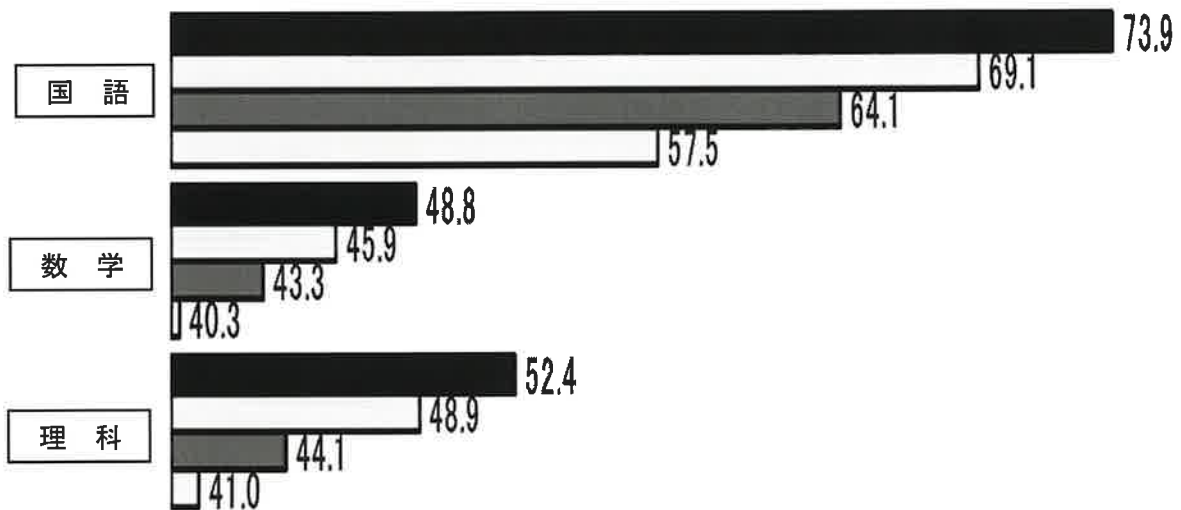
4 「読書は好きですか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られる。

【小学校】



■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

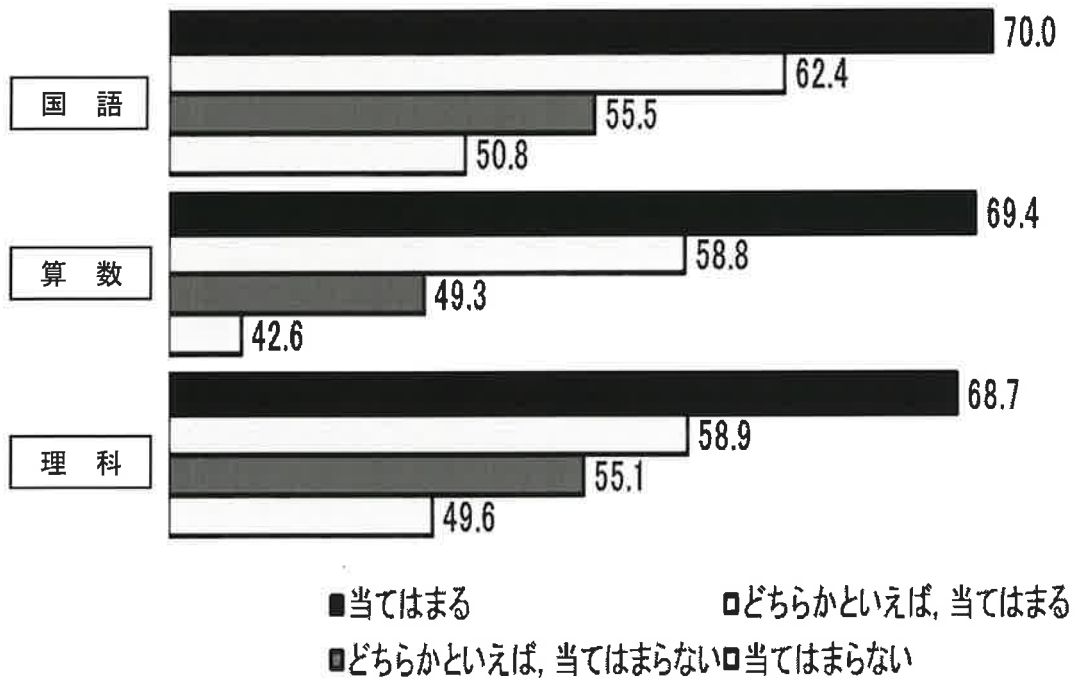
【中学校】



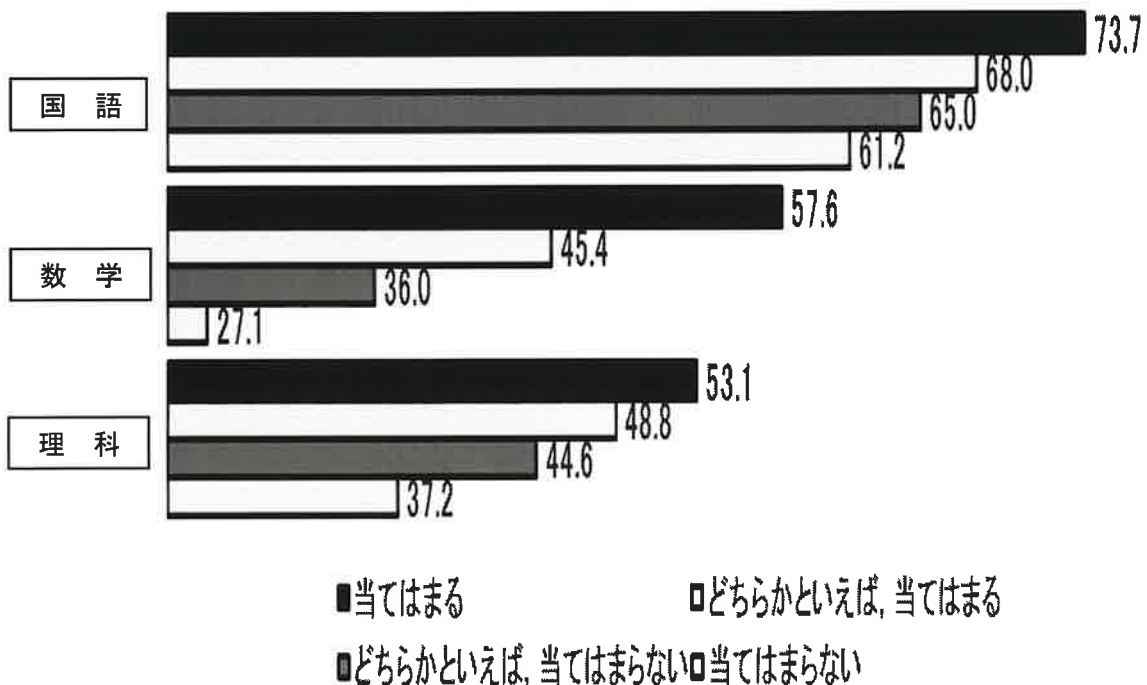
■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

5 「算数（数学）の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られる。

【小学校】

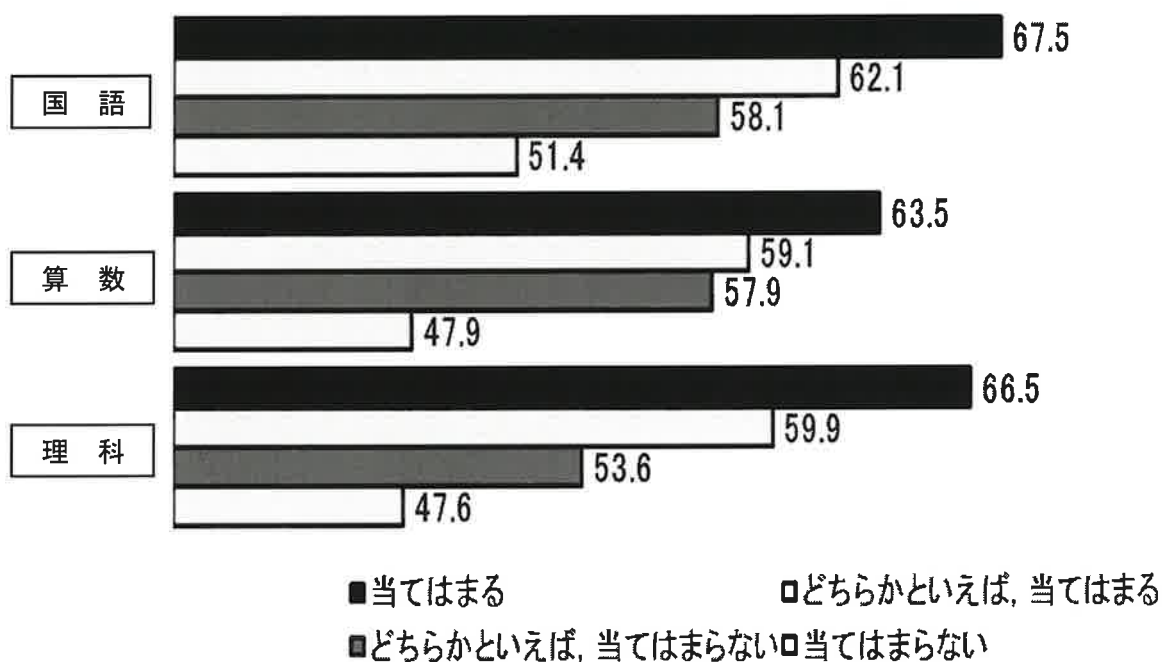


【中学校】

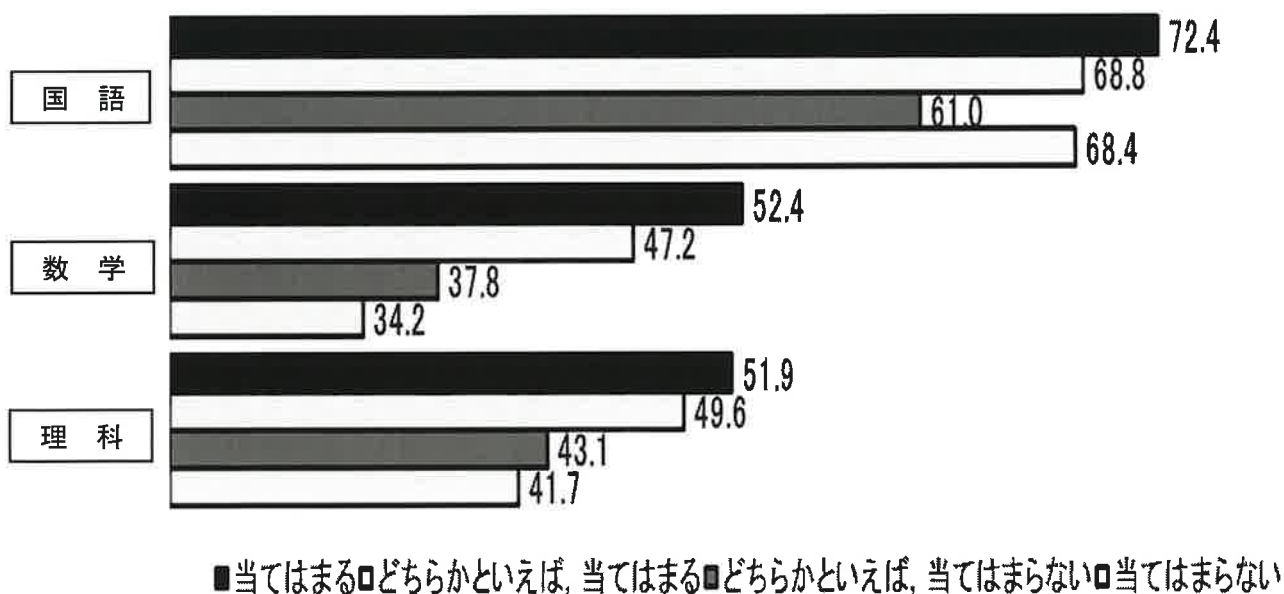


6 小学校「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか」、中学校「理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、中学校国語を除いて平均正答率が高い傾向が見られる。

【小学校】



【中学校】



各学校の取組

1 指導事項の重点化

各中学校区において、本市の学習の定着に課題が見られる内容及び各中学校区で課題となっている内容について共有を図るとともに、系統的な指導計画を立て、重点的に指導したり、繰り返し復習したりするなど、粘り強く継続的に取り組み、基礎・基本の確実な定着を図ります。

2 授業改善の推進

「小樽 授業づくりの5つのSTEP!!」を徹底し、自分の考えを書く活動や子ども同士が対話する活動など、子どもが主体となった活動を必ず位置付け、知識・技能に加えて、思考力・判断力・表現力等を育む授業を行います。また、家庭学習（音読、漢字、計算、自主学習ノート等）を「学年×10分+10分」以上、学習の定着に課題が見られる内容に繰り返し取り組むなど、具体的な取組を学校全体で実施し、必ず土日も勉強する時間を設けます。

3 小樽市小中学校学力向上検討委員会作成「確認テスト」の確実な実施

学力向上検討委員会が作成する学習の定着に課題の見られる内容に特化した「確認テスト」について、当該学年のテストに加え、下学年のテストを何度も解けるようになるまで繰り返し取り組ませるなど、子どもたちの基礎学力はもとより、活用力を高める取組を行います。

4 生活習慣の改善に向けた取組

「おたるスマート7（セブン）」の取組を継続するとともに、「生活習慣スケジュール表」を活用するなど、子ども自身が生活習慣の改善に向けて意識を高められるように指導します。

市教委の取組

1 小樽市小中学校学力向上検討委員会の取組

「学力向上検討委員会」を設置し、本市の学習の定着に課題が見られる内容や領域の解決に向けた「確認テスト」を作成して各学校の取組の一助とするとともに、とりわけ、算数・数学については、「算数・数学パワーアップセミナー」をオンデマンド形式で実施し、確実に授業改善につなげます。

2 学校訪問による個別の指導助言

各学校の課題解決に向けた取組の進捗状況を把握するとともに、学力向上に関わる今後の取組について個別に学校を訪問して指導助言を行います。

小樽 授業づくりの5つのSTEP!!

～ 市内全小中学校で取り組む授業づくりのポイント ～

基盤

安心して学べる学級経営 ～「居場所づくり」と「絆づくり」を通して～

【実践上の視点】

- ①自己存在感の感受 ②共感的な人間関係の育成
- ③自己決定の場の提供 ④規範意識の醸成

I 本時の目標と評価規準を明確にする

子どもにどのような力を身に付けさせたいかを明確にし、評価規準と評価の場面・方法を明らかにすることで、目標と指導と評価の一体化を図ることができます。

II 本時の目標を示し、子どもに学習の見通しをもたせる

授業の導入場面で本時の目標を明確に示すことで、子どもが学習の見通しをもち、主体的に学ぶことができます。

III 子どもが主体となった活動を位置付ける

- ① 自分の考えを書く活動
- ② 子ども同士で対話する活動
- ③ 身近な生活と結び付けて深く考える活動

Chromebook
を毎日活用!

教師が一方向的に説明する講義型の授業ではなく、子どもが主体となった活動を位置付けることで、思考力・判断力・表現力等を育成することができます。

IV 授業の流れが分かる板書とノート指導を行う

子どもが学んだことを振り返ることのできる板書とノート指導を行うことで、学習内容の定着につながります。

V 子ども自身に学んだことを振り返らせる

授業の終末場面で、子どもが感想を述べるだけでなく、学習した内容を振り返ることで、本時の学習内容をどの程度理解することができたかを子ども自身が認識し、次の学習への意欲につながります。

家庭学習の充実

「学年×10分+10分」以上 (中学1年生は「第7学年」とする)

- 宿題（音読、漢字、計算、自主学習ノート等）の出し方について、学校全体や学年、教科間で共通理解を図る。
- 家庭と連携し、達成感や自己有用感を味わわせる児童生徒への働きかけ（励ましやコメントなど）を意識する。
- 宿題は、基礎・基本の確実な定着を図る内容（漢字、計算等）と活用力を育成する内容のバランスをとる。